

22-430

木炭及其副產物



22-430

本書ハ木炭及其副産物ノ市況並ニ製造方法等ニ關シ各地方ヨリ  
得タル調査報告ヲ蒐集シタルモノニシテ斯業ノ參考ニ資スヘキ  
モノアルヲ以テ之ヲ印刷ニ附ヌ

明治四十年十一月

山 林 局



山林局 寄贈本



製本誤注意  
 末尾六十七頁ノ前ニ挿入シアル編圖  
 ハ乙號トシ四十五頁四十六頁中央ニ  
 アル編圖ハ甲號トナル故ニ乙號ハ甲  
 號ニ引續キ挿入ナス者ナリ

三十八年木炭産額調 附木醋酸製造者及産數

地方別	木炭		製造業者數	醋酸類數	備考
	産額	新舊製炭歩合			
北海道	一八、九五七、六七〇	新九分	二	二	
東北	一、四三三、〇〇〇	新二日ルモノ少ク歩合ヲ顯ス能ハス			
東京	一、一三五、六九一	新製炭ハ僅ニ三、二〇〇貫ナリ	四	二〇四	
大坂	三一九、五七〇	舊來ノ方法ノミニテ新法ニヨルモノナシ			
神奈川	一、九四五、八三四	新製炭ハ僅ニ三、二〇〇貫ナリ			從業者二十人トアリ産數不明
兵庫	七、四五八、九四五	新九分〇八	一		
長崎	二、〇一九、二九五	新八分五			
新潟	七、五四六、六三四	新九分七四			
埼玉	二、〇一九、二九五	新八分五	二	一〇	
群馬	四、五六一、三三六	新九分八七三			
千葉	六、六〇一、五三一	新九分七五			
茨城	六、三三七、九六二	新九分七五			
栃木	八、四四二、四九七	新九分	二	一〇	
奈良	九、一八六、〇〇〇	舊法ノミ			



地方別	木		炭		木醋酸類		備考
	産額	新舊製炭歩合	製造業者數	産酸數	備	考	
三重	三、七四七、二六七	新法ハ僅ニ一、六〇〇 實ニ過キス	二七	二七			
愛知	一、二三四、九七二	新二分	四七	五〇			
静岡	一、八六八、五五〇	過半新法ニヨル	四	六〇			
山梨	三、八六七、〇八四	新九分六					
滋賀	三、四八四、一三〇	新一分三					
岐阜	五、四六二、八六一	新九分四	一	一八			
長野	四、二五九、七〇二	新七分三	一〇	一五			
宮城	一、〇一五、五〇二	新一分五					
岩手	四、五〇〇、〇〇〇	新法ハ嘗テ舊セシモノ ナレバ未ダ産額詳ナラス					
福島	二、七九〇、〇〇〇	新二分					
青森	二、〇〇〇、〇〇〇	新一分五					
山形	六、五〇五、四七四	新九分五					
秋田	四、五七九、九七〇	舊來ノ方法ノミ					
福井	六、六六五、二五七	新二分					
石川	三、四五一、五四五	新九分三					
富山	二、〇七〇、五七五	舊來ノ方法ノミ					

島取	五、〇三〇、〇四〇	新九分三				
島根	九、九五六、〇七〇	新一分八厘				
岡山	四、四〇五、〇〇〇	新九分五				
広島	三、四〇二、六〇六	新七分二				
山口	五、六三四、九〇四	新九分二	一	五三		
和歌山	四、四四六、七三〇	新九分八	一	一一		
徳島	五、〇〇〇、〇〇〇	新九分五				
香川	四、一三九、三〇〇	舊來ノ方法ノミ				
愛媛	四、四四二、九二五	新九分二				
高知	一、一四六、三一六	未ダ新式ニ製成スルモ ノナシ				
福岡	二、三四五、七八〇	新七分二				
大分	六、二二二、二六〇	新一分五				
佐賀	四、四六七、九七一	新八分	一	三		
熊本	二、八九七、三二七	新七分五	一	二五		
宮崎	一、三〇五、一七五	新製法ニヨルモノナ シ				
鹿児島	四、三〇七、六五一	新七分				
沖縄	一、七〇六、五五六	未ダ新式製炭ノ設備ナ シ				
計	二、二二一、〇七〇、七〇七		二六八	六〇七		



木炭ニ關スル事項

(明治卅八年度)

北海道

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新炭價格平均十貫目ニ付

金五十四錢

舊炭同

上

金四十三錢

札幌地方ニ於ケル新炭ハ舊式炭ニ比シ炭質堅ク保火力強ク且燻烟少ナキ爲メ近時木炭ヲ多ク消費スル工場商店又ハ之レカ價值ヲ知リタルモノハ漸ク新式炭ヲ歡迎購入スルノ傾向アルモ概シテ未ダ新式炭ノ利益アルヲ知ルモノ少ナク炭質ノ良否等ニ懸念セズ唯價格ノ低廉ナルモノヲ競買スルノ弊アリ

空知地方ニ於ケル新式炭ハ硬クシテ保火力強キヲ以テ一般ノ氣受願ル宜シト雖供給者ニ於テハ技術ト手數ヲ多ク要スル割合ニ高カラサルニヨリ製炭ヲ好マサルノ傾向ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

本廳第五部地方林業課ニ地方費ヲ以テ林業巡回教師二名ヲ設置シ各支廳ヨリ製炭傳習ニ付派遣方申請ニ對シ其ノ都度出張傳習セシム現今專ラ黒炭ノ改良ヲ獎勵シツ、アルモ今後ハ白炭ノ製法ヲモ傳習セシムル方針ナリ而シテ所轄増毛支廳ニ於ケル方針及施設ヲ舉クレハ左ノ如シ

改良製炭法ハ在來ニ比シ利益ニシテ且ツ林業上至大ノ關係アルヲ以テ獎勵ノ方法トシテ林務派出所へ打合せ官林内ニ於テ製炭竈ヲ新設スルモノ或ハ破損再築スルモノニ對シテハ改良式ニ依ラシムル方針ヲ以テ誘導シ又御料林内ニアルモノハ同局出張所へ照會折業ノ改良法ヲ以テシ其他農會ヲシテ改良發達ヲ促サシム

營業家ハ已ニ改良木炭ノ有利ナルヲ自覺セルニヨリ漸次發達スルニ至ルヘシ然レトモ増毛地方ニ於ケル營業者



ハ農業及漁業ヲ主トシテ專業家ハ極メテ僅少ニシテ改良ノ計劃ヲ立ツルモノアリシモ農期ニ迫マラレ或ハ漁期ニ際シ在來築設ノ窳ヲ以テ製炭スルハ遺憾トスル所ナリト雖直接間接ノ勸誘ニ怠リナシ之ヲ要スルニ窳ノ改善ヲ實行セシメ而シテ製炭ノ販路ヲ擴ムルニアリ

其他各支廳ニ於ケル獎勵方針及ヒ施設ハ大同小異ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

小樽支廳管内余市郡赤井川村ニ產業組合ヲ設立シ目下斯道ノ發達畫策中ナリ函館支廳管内茅部郡森村製炭業者ハ同業組合ヲ組織セシ爲メ同業者十九名發起トナリ三十八年十二月中發起認可ヲ申請シ三十九年二月認可ヲ得タルヲ以テ設立手續中ニテ未タ業務開始ノ運ニ至ラス從テ其狀況及效果ヲ記スルヲ得スト雖モ發起認可以來斯業者ノ意向漸次同組合ニ傾クニ至レルヲ見レハ同組合設置ノ効果ハ從來ノ弊害ヲ矯正シ併セテ改良ノ實効ヲ舉クルヲ得ヘシト認ム

増毛支廳管内苫前郡苫前村大字古丹前ニ於テ規約ヲ結ビ組合ノ組織認可申請セシモ不備ノ爲メ未タ成立スルニ至ラス

東京府

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新炭ノ數量僅少ナルモ之ヲ市場ニ於ケル舊炭ニ比スレハ價格壹圓ニ對シ約五錢高ナリ而シテ製炭事業ニ關スル一般ノ趨勢ハ近來良木ノ造林増加ニ伴ヒ雜木ノ減少ト價格ノ騰貴ト來シ漸次製炭ノ數ヲ減スルニ至レリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

右獎勵ニ付テハ記スヘキ事項ナシ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

京都府

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

舊炭壹貫目ニ付 九錢乃至拾錢

新炭(改良炭) 拾貳錢乃至拾參錢

愛宕郡花脊村ニ於ケル近時製炭改良ヲ爲シタル成績ハ頗ル良好ニシテ大ニ市場ノ聲價ヲ博セシ模様ナリ今其新舊製炭比較表ヲ掲ケレハ左ノ如シ

新 (改良) 炭		舊 炭		差 引 増 減	
炭材	口 炭	炭材	口 炭	炭材	口 炭
燃料	炭化量	燃料	炭化量	燃料	炭化量
日數	人夫	日數	人夫	日數	人夫
百貫目	壹百貫	百貫目	壹百貫	〇	〇
五百貫	二百貫	五百貫	二百貫	〇	〇
分	八分	分	四分	〇	〇
七	七	三	三	〇	〇
三	三	六	六	〇	〇
三百貫	三百貫	三百貫	三百貫	〇	〇
貫	十貫	貫	十貫	〇	〇
八	八	八	八	〇	〇
十六貫	十六貫	十六貫	十六貫	〇	〇
四分	四分	四分	四分	〇	〇
三	三	三	三	〇	〇
六	六	六	六	〇	〇
三	三	三	三	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
十六貫	十六貫	十六貫	十六貫	〇	〇
二百貫	二百貫	二百貫	二百貫	〇	〇
百貫	百貫	百貫	百貫	〇	〇
三	三	三	三	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考

- 一舊炭ニ比シ改良炭ノ特色
- イ 炭質堅硬ニシテ充分ノ火力ヲ永ク保持スルコト
- ロ 皮ノ爆發セサルコト
- 一製炭改良實行ニ伴フ利益ノ點
- イ 改良ノ結果自然ニ炭材ノ濫伐ヲ防禦シ得テ炭材林ヲ保續スルコト



ロ 時間ヲ節約スルコト

ハ 林相ヲ改善シ水源涵養土砂杆止等森林間接ノ利益鮮少ナラサルコト

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

北桑田郡 木炭ハ本郡ニ於ケル重要ノ林産物ニシテ郡民必須ノ業ナレハ製炭ニ從事スルモノ多ク故ニ之カ獎勵ニ努ムルモ如何セン從業者ハ勞働者ニシテ資ニ改良ヲ圖ルノ思想ニ乏シク加之ナラヌ資金乏シキ爲メ實行上頗ル難事ニ屬セリ

一 木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

木炭ニ關スル組合ヲ設置セルモノ一ニアルモ未タ充分ノ活動ヲ見サルヲ以テ其效果ヲ表示シ得ヌ即チ北桑田郡大野村ニ於テ往年組合ヲ組織セシモ種々ノ事情ノ爲メ解散ヲナセリ弓削村ニ於テモ夙ニ組織ノ計劃ナリシモ實行ノ期シ難キト營業者ノ一致セサル爲メ遂ニ組織ノ運ニ至ラスシテ沙汰止トナレリ宮島村ニ於テモ亦申合組合ヲ設ケ一手販賣ヲ爲セリ然ルニ其規模小且創立日尙淺ク未タ記スヘキ事項ナシ

### 大阪府

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

府下ニ於ケル製炭ハ在來ノ方法ニ依リテ之ヲ實行シ未タ改良法ニ則レルモノアルヲ認メス

一 木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

木炭ノ製造業ニ關スル組合トシテハ南河内郡天見村ニ天見白燒木炭業組合ナルモノアリ道ハ準則組合ノ規定ニ依リ設立シ組合ノ地區ハ天見村一圓トシ其ノ事業トシテハ主トシテ組合員ノ製炭ニ對シ共同販賣ヲ爲シ其ノ方法トシテハ毎年豫メ組合員ノ製品全部ヲ競争入札ニ付シ一ケ年時價ノ高價ヲ論セス入札價格ヲ以テ取引スルニアリ隨テ競賣入札ノ際ト現品授受ノ時期トハ其ノ價格幾分ノ異動ヲ免レヌト雖モ累年ノ經驗上此方法ヲ以テ得

策トセルモノ、如シ

### 神奈川縣

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

舊製黒炭(竈内消火)十貫目ニ付 一圓乃至一圓二十錢

新製同 同 八 十 三 錢

舊製堅炭(竈外消火)同 一圓乃至一圓廿五錢

縣下津久井愛甲足柄上ノ諸郡ノ如キ山岳地方ニ於テハ舊製石籠堅炭ハ養蠶製糸家等ニ歡迎セラレ其他ノ地方ニ於テハ多ク舊製ノ土籠炭(黒炭)ヲ製造シ間々改良竈ヲ用ヒ製炭スルモノアルモ竈ノ構造及方法ノ不完全ナルカ爲メ其聲價ハ舊製炭ニ及ハサルモノ、如シ

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭ニ關シ未タ獎勵方法ノ施設シタル事項ナキモ將來漸次調査ヲ遂ケ改良方法ヲ講セントス

### 兵庫縣

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

縣下ノ製炭ハ殆ント舊式ニシテ偶々新式製炭ナキニアラスト雖亦舊來ノ竈ニ聊カ改良ヲ加ヘタルニ過キス然レトモ攝津ノ池田炭播磨ノ岡崎炭等ハ著名ニシテ其産額頗ル多シ市場ニ於ケル兩者ノ價格及批評ニ就テハ未タ改良木炭ノ産出高極メテ少キト又品質ニ於テ著シキ懸隔ナキ爲メ是レカ等差ヲ付シ雖改良ヲ加ヘタルモノハ從來ノ製炭ニ比シ稍優レル點アルヲ以テ十貫目ニ付五錢乃至十錢方ノ高價ナルモノ、如ク批評モ亦宜シキ方ニシテ今國別主産地ノ價格左ノ如シ

拾貫目ノ價格

(上下平均)



攝津川邊郡	八拾六錢
播磨神崎郡	六拾五錢
但馬養父郡	六拾貳錢
丹波多紀郡	六拾五錢
淡路三原郡	七拾五錢

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
 縣下森林ノ副産物ハ主トシテ木炭ナルヲ以テ是レカ生産ニ就テハ一層獎勵ヲ加フルノ必要ヲ感シ有名ノ生産地熊野日向等ニ當業者ヲ派遣シ親シク實地ノ調査ヲ爲サシメ又本年三月和歌山縣ヨリ製炭實業教師ヲ招聘シ安粟郡養父郡出石郡ニ於テ各十日間製炭ノ傳習ヲ開始セリ本傳習ハ創始ニ屬シ未タ充分ノ効果ヲ認メスト雖斯業ノ改善ニ資セシ所尠ナカラサレハ本年度ニ於テモ同様招聘ノ上實地指導ヲ爲サシムルコト、爲セリ

長崎縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評	
十貫目ニ付	舊製 六十三錢
同	新製 七十五錢

市場ノ批評ハ舊製ハ燒方概シテ完全ナラス爲ニ費消速ニ又發烟スルモノ多ク從テ漸次需用者減退ノ狀況ナルモ新製炭ハ右等ノ欠點少キヲ以テ好評ヲ見ルノ狀況ヲ呈ス  
 一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
 前項ノ如ク新製炭ハ種々欠點アルヲ以テ改良ノ必要ヲ認メ大ニ獎勵ヲ加ヘタル結果當業者亦改良ノ必要ヲ感シ各郡トモ他ノ地方ヨリ教師ヲ聘シ傳習所ヲ設ケ改良方法ヲ實習セシムル等諸々進歩ノ狀ヲ呈ス

新潟縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評  
 新舊製炭ヲ問ハス炭質ノ良否産地需用地或ハ一ヶ年内ノ季節等ニ依リ價格ニ差異アリト雖モ舊製炭ハ管内ヲ通シ概シテ平均十貫目ニ付五十錢目下新潟市ニ於ケル上等「カタ」炭十貫目ニ付九十五錢内外ナリト新製炭ハ舊製炭ニ比シ十貫目ニ付普通五錢乃至十錢内外高價ニ販賣セリ  
 元來新製炭法ハ舊製炭法ニ比シ原料ニ對スル木炭ノ收量ヲ増加シ製炭費ヲ節減シ得ル故同一貫數ニ對シ新製炭ハ舊製炭ヨリ幾分廉價ニ販賣スルモ製炭者ハ尙ホ相當ノ利益ヲ得ラル可キニ關ハラス改良木炭ノ名ニヨリテ反テ高價ニ販賣セシクメ一般需用者ハ新舊製炭ノ點火保火力等舊製炭ニ比較シ優レルヲ認メ新製炭ノ産出當時ニ在テハ需用多カリシニ關ハラス新製炭ノ需用ハ漸次減少スルニ至レリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
 木炭ノ需要ハ人口ノ増殖工業ノ發達等ニ由リテ旺盛トナリ又道路ノ開發ニ伴フテ供給頻多トナリ其結果トシテ山林荒廢シ製炭業者ハ漸次深山幽谷ノ地ニ推移スルノ止ムヲ得サルニ至リ其需要地ヲ遠カルニ從ヒ製炭家ハ遂ニ利益ヲ見ル能ハサルニ至ルヘキヲ以テ製炭法ニ改良ヲ施シ良炭ヲ製シ且ツ炭材ヲシテ成ルヘク損消セサル方法ニ導カントシテ管内十六郡中六郡丈ハ既ニ明治三十五、三十六、三十七年ノ三ヶ年度ニ於テ製炭教師ヲ聘シ之カ改良ヲ計リシモ製炭者ハ數十年來ノ舊法ヲ株守シ敢テ之カ改良ニ傾意スルモノ少ナク又獎勵費ノ充分ナラサル爲メ講習期間短ク從テ講習員ハ充分其技術ヲ修得シ能ハス爲メニ炭質粗惡反テ改良炭ノ聲價ヲ損スル等未タ効果ノ見ルヘキモノナシト雖モ縣ノ經濟上ニ於テハ忽諾ニ附ス可カラサルモノナルヲ以テ今後一層之レカ改善ヲ獎勵スルノ方法ナリ

埼玉縣



一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

大体ニ於テ舊製ノモノヲ好ム從テ價格モ多少高價ナリト雖モ冬期(寒中)製産セシモノニアラナレハ反テ新製ノ冬期製炭ヲ以テ上位ナリトス

價格ハ堅炭八貫目俵一俵ニ付金八十錢雜炭八貫目俵一俵ニ付金五十五錢ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

管内ニ於ケル製炭地中主ナル産地ハ秩父郡ニシテ同郡ニアリテハ製炭改良傳習所ノ設置及製炭講話會ヲ開催改良法獎勵ノ計畫中ナリ又巖キニ郡農會ニ於テ製炭改良ノ書冊ヲ賞品トシテ與ヘ誘導セシコトアリタリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

明治三十五年木炭製造者及同業者地區ヲ定メ組合ヲ組織シ粗製製造ヲ防ク爲メ一俵毎ニ標札ヲ付セシメ大ニ其効果アリシカ近來漸ク等閑ニ流ル、情況ナリ

群馬縣

一新舊製炭ニ對スル市價ノ價格及批評

新炭ハ一貫目七錢乃至九錢

舊炭ハ一貫目五錢乃至七錢

市場ニ於ケル批評ハ概シテ良好ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

客冬吾妻郡へ製炭教師ヲ派遣シ講習セシメシニ其結果良好ナリシヲ以テ本年冬季ニハ更ニ吾妻及北甘樂兩郡ニ於テ講習會開催ノ見込ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

吾妻郡ニアリテハ薪炭共同販賣ノ目的ヲ以テ有限責任吾妻薪炭共同販賣組合ノ設立アリ本年一月ノ創設ニシテ日尙淺ク未タ其効果ノ見ルヘキモノアラサレトモ將來大ニ有望ナリ而シテ本組合事業上困難ナルハ當地地方ニ於テ木炭製造ニ從事スルモノハ其大部分ハ中産以下ノ小民ナルカ故ニ目前ノ小利ニ甘シテ燒製法俵裝等ノ改良ニ意ヲ用ユルモノナキニ當テ仲買商人等ハ彼等ノ立場ヨリ其營業ヲ奪ハル、ノ虞アルヨリシテ故意ニ一時價ヲ高クシテ在來炭ヲ買收スルカ或ハ組織ノ面倒ナルヲ説キ若ハ組合理事ノ信用ニ關スル譏誣中傷ヲ試ミ以テ組合ノ隆盛ヲ妨ケントスル等開業以來幾多ノ困難ニ遭遇シタルコト少ナキニアラスト雖モ兎ニ角需要者即チ消費者ノ側ヨリハ漸次好評ヲ博シツ、アルヲ以テ組合ノ發展上將來大ニ有望ナリ

千葉縣

佐倉炭賣買目ニ付 金十二錢

雜木炭全 金九錢

松炭全 金七錢

(他ニ記載スヘキ事項ナシ)

茨城縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

價格ハ場所ニヨリ一定セスト雖モ改良炭ノ價格ハ舊炭ニ比シ一割位高シ而シテ改良炭ハ收炭率大ナルノミナラズ品質良好火力強キヲ以テ製造者ハ販賣者需要者ヲ通シテ好評ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

本縣從來ノ木炭ハ白炭黒炭共ニ製法巧妙ナラサル爲ニ品質優良ナラス其ノ收炭率亦大ナリナルヲ以テ之ヲ改良スルノ方針ヲ以テ三十八年度ニ於テ製炭教師ヲ採用シ重ナル製炭地ニ派遣シ改良製炭傳習所ヲ開キ營業者ニ對シ



製炭改良ノ方法ヲ實地傳習セシムルノ施設ヲナシ修業者百一人ヲ出セリ三十九年度ニ於テモ亦同一ノ施設ヲ以テ改良法ノ普及ヲ圖ルノ計畫ナリ

一 木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

木炭ニ關スル組合ニ二種アリ一ハ改良製炭修業者一ハ木炭商ノ組織ニ屬シ前者ハ組合數五アリト雖モ何レモ日尙淺ク效果ノ見ルヘキモノナント雖モ三十八年度ノ實況ニヨリハ總會等會合ノ時ハ各自製炭ヲ提出シ相互品評ヲ加ヘ以テ斯業利益ノ増進ヲ計リツ、アルヲ以テ歲月ノ經過ト指導其宜キヲ得ハ將來有望ノ組合ナラン後者ハ組合數二アリ一ハ久慈郡太田町一ハ西茨城郡笠間町ニアリ組合員ハ何レモ競争的賣買ヲナス製炭地ノ實利ヲ増進シ以テ木炭ノ改良發達ヲ圖ルニアリト雖モ太田町ノ分ハ效果ノ見ルヘキモノナシ笠間町ノ分ハ粗製品ヲ減少シタル點稍觀ルニ足ル

栃木縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭一貫目ニ什 金十錢

舊製炭同 金八錢

改良炭ハ其改良燒丈ケニ品質良好ノモノヲ產出ス故ニ今新舊兩種ノ製炭ヲ採リテ其ノ炭質ヲ比較スルトキハ舊製炭ハ遙ニ劣等ナリ

然レトモ現在改良燒ノ產額僅少ナルカ爲商人ニ於テ舊炭ト區別シテ取引スルモノ鮮ナキヲ以テ製炭者ノ收利スル所甚渺ナシ又營業者ノ多クハ既ニ熟シタル在來法ノ慣習ニ據リ更ニ新式ニ改ムルコトヲ努メサルナリ

要スルニ改良炭ニ品質在來ノモノヲ凌クニモ拘ハラス却テ其ノ發達ノ遲々タルヲ製炭者舊來ノ技ニ慣レ進シテ改良ヲ加ヘ良品ヲ製出スルノ意思之シキニアリ

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

改良製炭ノ獎勵トシテハ篤業者ニ對シ事業ニ要スル經費ヲ補助シ又適宜講習會等ヲ開設シテ斯業ニ關スル智識技能ヲ授ケ以テ將來ノ發展ヲ期シツ、アリ

三重縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭額少キヲ以テ充分ノ價值ヲ得ルコト能ハサルモ縣下ヲ通シテ平均舊炭一貫目ニ付金六錢内外新炭ハ舊炭ヨリ約一割内外ノ高價ニシテ頗ル好評ナリ而シテ新炭ハ舊炭ニ比シ一割餘ノ增收アリト云フ

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

縣ニ於テハ別段之カ獎勵及ヒ施設シタルコトアラサルモ飯南郡ニ於テ去ル三十八年郡事業トシテ福井縣製炭改良囑托教師ヲ招聘シテ同郡内ニテ該講習會ヲ開キ之カ改良法ヲ講シタリ其結果新製炭ハ舊製炭ニ比シ品質佳良加之ニ割餘增收ヲ得ルノ好成绩ヲ見ルニ至リシヲ以テ同郡ニ於テハ將來大ニ販路ノ擴張ヲ圖リ製炭額ヲ増加セシムル方針ニヨリ年々該講習會ヲ開設シ以テ汎ク普及セシムルノ計劃ナリト云フ但シ他郡ニ於テハ目下獎勵中ニ屬シ未タ揭記スヘキモノナシ

一 木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

北牟婁郡ニ於テハ各營業者間申合セ明治十七年尾鷲港山林物產改良組合ナルモノヲ組織シ之カ規程ノ下ニ主副産物ノ經營及改良ニカメツ、アリシモ顯著ナル效果ヲ見サルヲ以テ今ヤ同業組合法ニヨリ該組織ノ變更ヲナシ將來大ニ面目ヲ改メンコトヲ期シ居レリ

飯南郡ニ於テハ松坂町薪炭卸營業者ヲ以テ明治三十年創立ニ係ル松坂薪炭商組合ナルモノヲ組織シ相互親睦ヲ厚クシ信用ヲ重シシ營業上ノ隆盛ヲ圖リ粗製濫賣ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス而シテ組合員月並會ト稱シ



隨時會合シ產地ヨリ仕入ノ販賣價格ノ標準ヲ定メ競争ノ弊風ヲ除去シ販出先ニ於ケル各商店ノ狀況其他販賣ニ關シ氣脈ヲ通シ松坂炭(飯南産)ノ信用ヲ失墜セサルコトニ努メツ、アリ故ニ創立前迄ハ斤量ノ正確ナラサルモノ燻フルモノ等粗製品濫賣ノ爲ニ不振ノ狀態ナリシカ本組合創立以來嚴重ニ製品ノ取締ヲナシ今日ニ於テハ不良品等ナク販出先ニ於ケル需用ハ益増加シ好況ヲ呈シツ、アリ

愛知縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

文庫炭 (八貫目迄)	四拾七錢
炭	
上口黑炭 (四貫目迄)	貳拾七錢
並黑炭 (同上)	拾七錢
大鼓儀別上二本撰 (四貫二百目迄)	四拾錢
白炭	
同 大上口炭 (同上)	貳拾五錢乃至卅八錢
同 入炭 (八貫目迄)	四拾五錢

此外段戸炭ト稱スルモノハ(四貫二百目迄)十七錢乃至二十二錢

松炭 (五斗入)  
 銀治炭 栗炭 (同) } 十五錢乃至二十八錢  
 雜栗炭 (同)

以上白炭中積後腐卷等ノ名アルモ製造者少ク需用者モ概シテ大鼓儀ヲ好ミ市場ニ於テモ重ニ買賣サルルハ大鼓儀ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果  
 黒炭ノ需用ハ夏季ニ多ク冬季ニ少ク之レ燃焼シ易クシテ使用ニ便ナルニ由ル  
 鍛冶炭ハ地方鍛冶職ニ供給スルノ外殆ント稀ナルヲ以テ産額モ亦至テ少シ

東加茂郡全部ヲ一區域トシ製造業者、卸小賣者、仲買者ヲ以テ組織シ組合ヲ十八郡ニ區劃シ各部ヨリ一名ツ、ノ代議員ヲ撰出シテ組合總會ヲ組織ス

組合現在員千二百六人  
 現在役員 頭取一人 副頭取一人  
 現在事務員一人

靜岡縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評  
 新炭ハ舊炭ニ比シ壹圓ニ付壹貫五六百目高且好評ニシテ將來新法ニ改良スルノ必要ヲ認ム

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設  
 從來皆テ郡村ニテ製炭教師ヲ雇聘シ講習セルモノアレトモ中途廢絶仍テ當處ニテ適當ノ教師ヲ雇聘シ各郡ヲ巡回製炭改良ニ盡サシムル方針ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果  
 粗製濫造ノ弊ヲ矯正シ産額増加ノ實ヲ期セシメンカ爲メ組合設定ノ急務ヲ感スルハ官民一般ノ狀況ナルニヨリ目下産業組合法ニ基キ設定勸奨中就中縣下志太郡ハ己ニ組合法ニ基キ設定漸次製炭改良ノ實ヲ舉ケツ、アルヲ以テ速ニ各地ニ實施セシメントスルモ地方利害ノ實情ハ其産額十萬圓以上即組合設定ノ制限ニ適スル區域ヲ求メ難キ事情アルカ爲メ折角企圖シタル改良組合設置モ當業者ニ於テ遲疑シ居ル狀態ナリ



山梨縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

從來ノ木炭ハ現今甲府市内ノ相場ハ一貫目(正味)黒炭六錢五厘白炭七錢内外ニシテ改良木炭ハ之ニ比シ約一割内外ノ高價ナレトモ需要者ハ炭質ノ良否ヲ選擇スルコト稀ニシテ多クハ價格ノ低廉ナルヲ嗜フノ傾キアルヲ以テ改良炭ハ一般ニ實質丈ノ好評ヲ博スルニ至ラス

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

本縣下産出ノ白黒炭ハ炭質良好ナラス且儀裝不完全ナルヲ以テ之ヲ改良シ良質ノモノヲ製出セシメントシ三十六年度來改良製炭講習所ヲ各部ニ開設シ講習生ヲ募集シテ之ヲ習得セシメ現今モ繼續シツ、アリ

滋賀縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新炭 百貫目ニ付 六圓二十三錢  
舊炭 百貫目ニ付 五圓八十八錢

縣下各地ニ於ケル批評ハ一様ナラスト雖之ヲ概括記述スレハ新製炭ハ其ノ製作ニ手數ヲ要スルコト多キニモ拘ハラス市場ノ價格舊製炭ニ比シ割合安價ナルヲ以テ從テ其産出少ナク且使用ニ馴レサル爲或ハ火附惡ク或ハ火ノ消ヘ易クシテ火鉢用ニ不適當ナリナドト稱シ一般ノ賣行ハ尙舊炭ヲ好ムモノ多キカ如シ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭ハ山間農家ノ副業的生産物ニシテ製造者ノ多ハ資力ニ乏シク糊口ニ汲々タル有様ナルヲ以テ其ノ誘導ヤ容易ナラス縣下各部ニ於テハ時々誘導法講習會ヲ開キテ學理ノ一斑ヲ了得セシメ又一二ノ郡ニアリテハ現ニ製炭改良組合ヲ設ケテ品質及重量ノ改善販路ノ擴張ヲ計レル等其ノ他ノ方法ヲ以テ常ニ獎勵ニ怠ラスト雖モ如何セ

ン着々其効果ヲ舉クルニ至リ雖キヤ以テ徐々ニ改良ヲ圖ラシムルノ外ナカルヘク尙斯業施設トシテハ特ニ記スルニ足ルヘキモノナシ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

組合ニ關シテハ滋賀郡ニ萬川製炭改良組合伊香郡ニ中河内木炭改良組合杉野村大字金居原木炭改良社全大字杉野木炭改良社ノ設置アリ

前記村落ニ於テハ曩ニ該組合ヲ組織シ組合員協力一致シテ製炭ノ改良及販路ノ擴張ヲ圖リツ、アリ就中其ノ著シキハ伊香郡中河内ニ於ケル組合ニシテ多少其ノ効果ヲ顯ハシ今ヤ縣下ニ於テ中河内炭トシテ較聲名ヲ舉グルニ至レリ

滋賀郡萬川村ニ於テハ前記組合ノ外無限責任萬川販賣購買組合ナルモノヲ設ケ(一)組合員ノ生産シタル林産物ヲ買入レ之ニ加工シ又ハ加工セシテ賣却スルコト(二)生計及林産物製造ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルヲ

以上ノ目的ヲ以テ爾來之カ實行ニ力メ營業者相互ノ利益ヲ圖リツ、アリ

岐阜縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新炭一圓ニ付 上十二貫目 中十二貫五百目 下十四貫目  
舊炭全 上 上十三貫目 中十五貫目 下十六貫目

新製炭ハ原料木ニ對スル製炭量多キト耐火力強キヲ以テ製炭者及需用者共一般ニ歡迎スルノ模様ナルモ新法ノ傳習日尙淺ク製品少キ爲販路確定セサルト加フルニ製造人ノ多クハ無資産且ツ無教育者ナルヲ以テ進ムテ改良法ヲ執ラントスルモノ少ク一時黨ノ改築等ノ勞費ヲ厭ヒ唯舊來ノ慣習法ヲ持續スルモノ多クシテ未ダ新法ノ普



及スルニ至ラヌ又需用者ニ在リテハ上流社會ニ於テハ新炭ヲ歡迎スルモ下流社會ニ於テハ品質ノ如何ニ拘ハラ  
ヌ唯安價ナル舊炭ヲ用フルモノ多シ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

製炭改良ノ必要ハ既ニ論アリ而シテ石炭炭堅炭ト稱シ其ノ用途ニ定マリアルヲ以テ暫ク舊法ニ依ラシメ土窯製  
ハ漸次改良法ヲ普及セシムル方針ヲ以テ去三十二年以來專門技術者ヲ招聘シ傳習中ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

木炭ニ關スル組合ヲ組織セルハ現在二箇ニシテ一郡ヲ以テ區域トセルモノ一、一部落ヲ以テ區域トセルモノ一  
ニシテ何レモ其區域内ノ製炭業者ヲ以テ組織セリ

組合ノ效果ハ未タ著シキモノヲ見サルモ製品ノ改良一定ヲ計リ精製スル結果販賣ニ際シ價格ノ一定ヲ維持シ製  
品ノ停滯ヲ見サル等ハ組合組織ノ効果ニ歸ス

長野縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新舊製炭ニ對スル市場ノ批評ハ區々ニシテ一定セサレトモ目下ノ批評ヲ概括スレハ殆ント甲乙ナシ而シテ其價  
格ハ生産地ノ距離及産額ニ應シ多少ノ等差アリト雖モ平均一貫目六錢強ナリトス

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

製炭ノ獎勵ニ就テハ特ニ具体的ノ獎勵方法ヲ設ケタルモノナシト雖モ縣郡市等ニ於テ開催セル林業講習會及郡  
林業巡回教師ノ設ケアル處ニハ是カ巡回教師等ヲシテ獎勵講習ヲナス等隨時適宜ノ方法ヲ以テ着々獎勵ノ法ヲ  
講シツ、アリ

宮城縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製品ハ舊製品ニ對シ凡ソ貳割ノ高價ニシテ其原料ニヨリ價格一定セサルモ普通舊製品ハ賣目四錢トス輸出  
向市場ニ於テハ新製品ヲ歡迎シ地方消費向市場ニ於テハ習慣上舊製品ノ歡迎スルノ傾アリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

先年製炭教師ヲ雇ヒ講習ヲ爲シタル結果今日僅ニ新製品ヲ見ルニ至リシモ其後特ニ獎勵シタル事ナシ郡或ハ町  
村ニ於テ木炭品評會等ヲ開設シ獎勵ノ途ヲ講シ居ルモノアルモ一般ニ充分ナル獎勵法ナシ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

客年凶歲ノ結果製炭業者資金ノ缺乏ヲ告タルヨリ製炭組合或ハ生産販賣組合等ノ組織ヲナシテ製炭ヲ爲シタル  
結果頗ル良好寧ロ今日ニテハ資金ノ供給ヨリ販賣ニ向テ組合ノ必要ヲ感シ居ルモノ、如キヲ以テ追々ニ組合  
組織ノ改良ヲ見ルヘキモ目下ハ組織甚タ幼稚ナリ

福島縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新法ニ依ルモノハ舊法ニ比スレハ市場及樹種ノ如何ニ依リ多少ノ相違アリト雖モ白炭ニ於テ約一割乃至二割黒  
炭ニ於テ三割乃至五割ノ高價ヲ示シ且其炭質ノ善良ナルハ縣民一般ノ認ムル所ナルヲ以テ好評ヲ博シ居リ然  
レトモ中等以下ノ生活ヲ爲ス人口ハ主トシテ低廉ナルモノ、ミ希望シ居ルヲ以テ新法ニヨルモノハ需用多カラ  
ズト云フ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針並ニ施設

本縣製炭ニ製炭改良ノ必要ヲ認メ去三十二年十月織田源松ヲ聘シ管内樞要ノ地ニ期間約一ヶ月ヲ以テ傳習所ヲ  
開キ三十七年四月一度閉所シ傳習生ハ自費ナルモ各郡農會等ヨリ一人ニ付五圓以内ノ補助金ヲ殆ト各郡ニ



於テ與ヘタリ)更ニ製炭上適當ナル時季各年十月ヨリ翌年四月ニ至ルノ間前例ニ倣ヒ傳習所ヲ開設シ石菴及土  
 竈ノ築設并ニ製炭方法ヲ實地ニ示シ今日ニ至ルノ間一市十七郡ノ内己ニ二十ヶ所ニ開設シタリ生徒ノ數約八百  
 人之ヲ縣下製炭專業者ニ比スレハ一割三分強ニ過キザルヲ以テ引續キ本年度ニ於テモ傳習所ヲ開設スルト共ニ  
 一面築竈改良ノ必要ヲ當業者ニ知悉セシムル方法ヲ採リ併セテ品質ヲ一定スルノ必要ナル所以ヲ悟ラシムル目  
 的ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及ヒ効果  
 組合ハ安積郡三代村ニ於テ產業組合法ニ依リ設立シタル無限責任三代木炭購買販賣組合アリ其ノ目的トスル所  
 ハ木炭ニ要スル木材及組合員ノ農事并ニ生計ニ必要ナル物品ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却シ及組合員ノ委託ヲ  
 受ケ其生産シタル木炭ヲ販賣スルニアリテ四十四名ヲ以テ組織セリ而シテ本組合ハ昨年十二月廿五日設立シタ  
 ルモノニシテ創立後日尙淺キヲ以テ未タ充分ナル效果ヲ舉クルニ至ラサルモ目下ノ處成績良好ニシテ前途有望  
 ナリ

岩手縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評  
 新法ハ講習日淺ク未タ一般市場ノ價格及批評ヲ調査セスト雖モ在來法ニ比セハ炭質佳良ナルヲ以テ從テ價格増  
 大ナルヘシト思考ス  
 一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
 製炭ニ對スル獎勵ノ方針ハ管内廣大ノ雜木潤葉樹林ヲ有シ之レカ林利收得上製炭ト爲シ他ニ輸出スルノ利益ナ  
 ルヲ以テ巡回教師ヲ聘シ講習セシムルノ方針ニシテ其ノ施設ニ就テハ順次各郡ニ講習會ヲ開キ普及セシムル見  
 込ナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及ヒ效果  
 木炭ニ關スル組合ハ有限責任盛岡上小路新炭販賣組合及紫波郡志和村規約會等ニシテ其長況佳良效果著シキモ  
 ノト認ム

青森縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評  
 新炭 一貫目ニ付 白五錢五厘 黒四錢五厘  
 舊炭 一貫目ニ付 白五錢 黒四錢  
 縣下一般小賣單位ハ多ク容積(俵)ヲ基ヒトセリ故ニ重量ニ重キヲ置カスシテ容積ノ大ナルヲ低廉トシ之ヲ好ム  
 ノ風アリ從テ新炭ハ善良ナレトモ高價ナリトノ非難モアリシカ使用後其效果ヲ知ルニ至テ漸次需用ヲ増加シツ  
 、アリ又一方製炭者ニ於テモ舊製ノ熟練ヲ去テ新法ニ就クカ故ニ其間ニ多少勞力功程ニ差異ヲ生シ所謂面倒ナ  
 リトノ聲ヲ聞キシカ漸次其真味ヲ覺ヘ進シテ教師ノ派遣ヲ乞フモノ四方ニ起レリ  
 一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
 由來豐富ナル原料ヲ蓄積シ且ツ寒氣酷烈ナル本縣ニ於テハ製炭ハ有爲ノ産業トシテ大ニ發達スヘキハ當然ノ如  
 クナルモ不幸舊製炭ハ其品質粗惡ニシテ他方面ノ需用ニ適セサルハ去三十五年ノ凶作ニ際シ近ク實驗セル所ナ  
 リ當ニ他方面ニ適セサルノミナラス縣内ノ需用タモ滿タス能ハスシテ秋田岩手ノ兩縣ヨリ毎年多少ノ輸入ヲ見  
 ルカ如キハ蓋シ其原因種々アリト雖モ主トシテ其製法ニ缺クル所アリト謂ハサルヘカラス是ヲ以テ凶作ノ翌三  
 十六年ヨリ旁々窮民救濟ノ一端トシテ新法ノ改良ヲ企圖セリ而シテ第一期ニ於テハ傳習所ヲ開設シ之ニ當業者  
 ヲ集メ以テ傳習ヲ行ヒ第二期ニ於テハ築竈料ヲ補助シ教師ヲ派シ修得後ハ組合ヲ設立セシムルノ方針ヲ執レリ  
 今試ニ改良ノ目的ヲ舉ケレハ次ノ如シ



一炭質ヲ精良ニスルコト  
 一炭化歩合ヲ昂上スルコト  
 一勞力ノ順序ヲ正シ功程ヲ増進スルコト  
 一俄裝ヲ改メ運搬ニ便スルコト  
 要之其製法ヲ經濟的ナラシム以テ縣内外ノ需用ニ應セシメントスルニ外ナラサルナリ  
 次ニ其施設ニ關スル大様ヲ述フレハ朽木縣ヨリ教師ヲ聘シ各郡ニ約一ヶ所ノ傳習所ヲ開設シ其期間ヲ六十日トシ一日金二十五錢ノ食費ヲ補助シ以テ希望者ヲ傳習セシメ爾後教師ヲ巡回セシメ一ヶ所一週間内外ヲ費シ前傳習者ヲ復習セシメ勞々一般營業者ヲ指導シタリ之ヲ第一期トス  
 傳習所ノ條件

多衆ノ着目シ易キ箇所

築 窰 位 置

強風ヲ防キ乾燥シ易キ箇所

古土及水ヲ得易キ箇所

將來必ス斯業ニ從事スル者

資 格

意思堅固性質善良ナル者

十六歳以上ノ男子ニシテ可成文字ヲ書キ得ル者

携 帶 品

斧、鋸、鉋、鎌、鑄、鑄、器具等

獎 勵

原料ヲ買入レ其製炭ヲ賣拂ヒ其差額ハ生徒ノ優等ナル者ヨリ順次分與スルコト

第二期トシテ目下實行中ノ方法ハ既往傳習生中ノ優等者ヲ撰拔シテ之ヲ教師トシ尙時々朽木縣ノ教師ヲ巡回セシム而シテ其條件ハ左シ如シ

- 一築窰一枚ニ付金三圓以下ヲ補助ス
  - 一一町村(一ヶ所)毎ニ二十人以上ノ傳習生アルヲ要ス
  - 一一町村(一ヶ所)毎ニ二十窰以上ヲ築造スルヲ要ス
  - 一傳習後必ス組合ヲ組織シ之ニ加入スルヲ要ス
  - 一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果
- 組合ハ産業組合法ニ依リ組織シタルモノ木炭ノミノ販賣購買組合ニ、他ノ農産ヲ兼ネタル者一ニシテ別段ノ異例ヲ見ス而シテ現在業務ハ圓滿ニ實行セリ其効果ノ如キハ設立日尙水淺キヲ以テ未ダ顯著ナラヌト雖漸次成功ノ曙光ヲ放テリ

山 形 縣

- 一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評
  - 一新舊製炭ノ市場價ヲ比較スルニ一般ニ舊炭ハ常ニ二三厘乃至一錢高シ(一貫目單價)之レ新法ニヨル炭ハ其技未タ完全ノ域ニ達セス從テ炭化セサル部分多ク且又舊炭ヨリモ使用上ニ於テ不便少ナカラサルニヨルナランカ爲ニ新炭ハ市街地ニ於テスラ用途廣カラス
  - 一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設
- 縣下ニ於ケル製炭業ハ冬期積雪中山村農家唯一ノ副業ナレハ炭質ヲ改良シ燒歩ヲ増加セシメ或ハ築窰法ヲ改良セシムル等出來得ル限り生産費ヲ減少セシメントシテ各郡ニ於テ斯道ノ教師ヲ備聘シ其ノ方法ヲ傳習セシメタルコトナキニ非サルモ新炭ハ需用者少キ爲メカ製炭者ハ舊法ニヨリ製造スルヲ改メス而シテ之レ以外特殊ナル獎勵施設等ナシ
- 一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果



秋田縣

販路ノ擴張又ハ價格ヲ騰貴セシムル目的ヲ以テ極メテ小規模ナル共同組合ノ如キモノヲ一二箇所設ケタル地アリシモ今ハ之レアルヲ閉カス從テ未タ組合ヲ組織スル迄ニ至ラサルヲ以テ實況及ヒ其ノ効果ハ記スルヲ得ス

福井縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

市場價格ハ新製品ハ舊製品ニ比シ約一割高ヲ示シ一般ノ批評ハ改良着手當時ハ甚タ不良ナリシカ其後一年新製品ノ弊價ヲ高ムル趨向アリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭ニ對スル獎勵ノ方針ハ品質ノ改良ト炭化率ノ増加ヲ主眼トシ兼テハ木醋採收ノ發達ヲ期スルニ在リ即縣下山林ノ多クハ殆皆木炭ノ産地ニシテ營業者約二千人一年ノ産額六百萬貫内外價格(山元)四十萬圓内外ナリ内約三割ハ管外ニ輸出ス而シテ管外輸出高ノ漸々増加スルニ從テ其ノ全体ノ産額モ年一年ニ増進シ爲ニ粗製濫造ノ弊之ニ伴ヒ一面森林ハ益々濫伐セラル、傾向アリ之カ改良ハ一日モ忽緒ニ附スヘカラサルモノト認ム其最急ヲ要スル炭質ノ改良ト原木ノ節約ヲ主眼トシテ之カ獎勵ニ著手セリ試ニ斯舊二法ノ炭化率比較ヲ示セハ舊法ハ一割余乃至一割五分内外新法ハ二割乃至二割五分(稀ニ三割余)ニシテ其間一割内外ノ增收アリ此增收ハ即チ原木ニ及ビ從テ伐採面積ヲ増加スルコト勿論ナルヲ以テ改良ノ利分ハ實ニ小少ナラサルナリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

木炭ニ關スル組合ハ産業組合法ニヨリ設立シタル販賣組合ニアリ其實況及効果ハ左ノ如シ

一組合名 有限責任福井縣木炭販賣組合

明治三十六年十二月三十日設立

一三十七年度(十二月)末現在ハ左ノ如シ

組合員ノ數 六十四人

出資口數 百廿五口(一口出資額二十圓)

拂込済出資額 參百七十五圓

拂込未済同上 貳千百貳拾五圓

準備金 貳圓參拾錢(加入金)

一三十七年度營業成績ハ左ノ如シ

販賣高 數量五千五百俵

價格二千六百六十七圓三十一錢六厘

現在高(年度末)數量千三百四十一俵

價格四百二十圓十錢三厘

總益金百五十二圓十六錢三厘

總損金四百八十六圓九十錢八厘

差引純損金三百三十四圓七十四錢五厘

一三十八年度ノ營業成績ハ前年度ト大差ナク販賣高ヲ増加シ損金亦大トナレルモ大体ニ於テ事業一步ヲ進メタ



ル趣ナリ

以上列記スル處ハ即設立以來ノ狀況ニシテ一見甚タ不振ノ觀アリ從テ其効果トシテ見ルヘキモノアラサルカ如キモノノ畢竟創立日尙淺キト組合員ノ出荷調ナルトノ爲ニ營業上ノ故障ヲ受ケタルコト甚クシク検査督勵等ニ經費ヲ要セシコト亦尠カラズ自然損失ニ歸シタルニ外ナラズ然レトモ本組合ノ設立ハ從來ノ仲買人若ハ小賣商人ノ介入ヲ防キ其結果直接間接ニ縣下一般ノ木炭業者ヲ利シタルコトハ勿論其一面ニハ需要者ヲ利シタルコト明カナル事實ナルヲ以テ現今ノ損失ハ姑ク措キ斯業發展上ニ及ボシタル効果ハ蓋シ著シキモノアルヘシ現組合員ニ於テモ既ニ之ヲ認メツ、アルトヨロニシテ組合存続ノ決心ハ牢乎タルモノアルカ如シ

石川縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

舊炭 壹貫目ニ付 叁錢乃至七錢

新炭 同 七錢

批評概シテ良好且ツ將來有望ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針及施設

炭材改良ノ一策トシテ數年前ヨリ樾苗ヲ養成シ無代下附シ植栽ヲ獎勵スルト同時ニ每各郡ニ開ク林業ノ講習若クハ講習會ヲ利用シ製炭改良ノ必要ヲ獎勵シ或ハ縣設模範林業場内ニ改良製炭ヲ築キテ廣ク之レカ模範ヲ示シ或ハ地方希望者ノ請ニ依リ當該吏員ヲ派遣シ指示練習セシメ或ハ郡費ヲ以テ改良製炭ノ補助ヲ與フル等漸次改良セシムルノ方針ヲ取レリ

富山縣

縣内ニ於テ產出スル木炭ハ其製造方法劣拙ニシテ尙大ニ改良ヲ施スヘキ余地アリ故ヲ以テ去ル明治三十六年富山

縣ヨリ特ニ教師ヲ聘シ郡農會又ハ町村農會ヲシテ主要ナル產地ニ講習會ヲ開カシメ漸次改良ヲ促進セシムルノ計劃ヲ立テタルモ營業者協同一致ノ力ニ乏シク個々獨立ノ販賣ハ以テ市場ニ於ケル改良炭ノ聲價ヲ博スルニ至ラス加アルニ在來ノ炭燒法ハ作業上手數ヲ要セサルノ故ヲ以テ折角鼓吹シタル改良法モ遂ニ其目的ヲ達スル能ハスシテ次第ニ其後ヲ絶テ現今ニ於テハ唯僅カニ一二營業者カ折衷の炭燒法ヲ行フノ外殆ント舊態ニ復スルニ至レリ以上ノ如キ狀況ナルヲ以テ更ニ進ンテ改良法ヲ獎勵スルト同時ニ一面營業者ノ結合ヲ圖リ彼ノ產業組合法ニ依ル組合ヲ組織セシメ一致協同ノ下ニ改良ヲ行ハシメタキ考ヲ以テ目下夫々勸誘中ニ屬ス

鳥取縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

市場價額ハ在來法ニ依ルモノ十貫目平均四十二錢七厘弱ニシテ改良法ニヨルモノハ二錢乃至三錢高價ナリ

批評ハ改良法ハ炭質堅硬ニシテ火元強ク火持久シキニ耐ニ發煙ノ憂ナク且儀裝一定(小束)ニシテ取扱ニ便利ナリト云フト雖價格ハ高價ナリ

島根縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 拾貫目ニ付平均 四十六錢五厘

舊製炭 全 三十五錢五厘

舊製ノ木炭ハ價格低廉ナルモ原料ノ劣惡殊ニ製法粗惡ニシテ煙氣アリ且耐久力ナキ爲メ一般ニ忌避セシレ需用漸ク減少スルニ至レリ之ニ反シ新製木炭ハ其ノ原料ヲ樾、枹、檜等ノ硬堅ナル樹種ヲ撰ミ製炭ト爲スカ故ニ耐久力長キヲ以テ漸次需用者ヲ増加スルノ傾向アリ隨テ新製法ニ改良スルモノ多シ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設



本件ニ就テハ縣林業教師ヲシテ製法ノ講習及講話等ヲ爲サシメ一面ニ於テ原料改良ノ急ナルヲ認メ獎勵スヘキ  
樹種ヲ定メ縣下各郡ニ苗木栽培場ヲ設置セシメ製炭原料タル櫟、枹、櫻等ノ栽培スルモノニ對シ縣費ヲ以テ補  
助金ヲ支給シ去ル三十六年度ヨリ繼續セリ

一 木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

縣下大原郡ニ於テハ明治十九年ヨリ能義郡ハ三十二年ヨリ邑智郡ハ三十八年ヨリ各一郡ヲ一地區トシテ組合ヲ  
設ケタルニ邑智郡ハ設置後未タ日尙淺キヲ以テ著シキ效果ヲ認メスト雖モ大原能義二郡ニ於テハ組合設置後攝  
津池田法ニ依テ製炭法ヲ改良シ組合員ノ同法協力斯業上ノ矯弊尙遺ニ留意シタル結果面目ヲ一新シ精粗善惡ヲ  
混交シ或ハ不正ノ重量ヲ付シテ販賣若クハ偽購セントスルモノ殆ント跡ヲ絶チシハ一ニ組合ノ効果タルヲ信  
ス

岡山縣

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

拾貫目ニ付(新舊トモ價格ニ大差ナシ)

上一圓二十錢 中一圓 下八十錢

新炭ニ就テハ好評ナキニアラサルモ縣下僅ニ二三ノ郡中ニ新炭製出者アルノミニテ其產額多カラサルヲ以テ改  
良ノ効力ヲ周知セサルニ起因スト雖モ概シテ耐火力弱ク減燼早キ感アルヲ以テ其使用者廣汎ナラス且生産者ヨ  
リ見ルトキハ舊炭ニ比シ幾分か生産量ノ増加アルモ市場ノ價格ハ寧ロ舊炭ノ方優レルト且技術上熟練セサルヲ  
以テ純良ナル新炭ノ産出ヲ見ルニ至ラス之ニ反シ舊炭製造者ニ於テハ漸次改良ヲ加ヘツ、アルヲ以テ原料ニ對  
スル生産量ヲ増加シ從テ其製品良好ナルモノ少ナカラス故ニ市場ニ於テハ却テ舊炭ノ分好評ヲ博セリ

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

明治三十四年度ヨリ全三十六年度ニ至ル三ヶ年間製炭教師ヲ聘シ縣下各郡ニ講習所ヲ開設シ製炭改良上指導誘  
掖シタル外施設ノ事項ナシ

廣島縣

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

白炭價格一貫目ニ付五錢乃至十錢ニシテ炭質最モ堅ク火力強キヲ以テ工業其他日用ニ供シテ好評アリ

黒炭價格一貫目ニ付三錢乃至七錢ナリ廉價ナルヲ以テ多ク用ラル、モ炭質軟ニ火力弱ク且ツ多少燻烟アルノ嫌

アリ改良炭價格一貫目四錢乃至九錢ナリ炭質稍堅ク火力亦強キヲ以テ日用ニ供シテ好評アリ

一 製炭ニ對スル獎勵ノ方針及施設

本縣從來ノ製炭法ハ熟レモ改良ヲ加フルノ要アリテ就中黒炭ハ産額最モ多キヲ以テ之カ良否ハ利益増進上ニ多  
大ノ關係ヲ及ボスニ依リ明治三十三年度以降教師ヲ採用シ各產地ニ派シ當業者ヲ集メ實地ニ就キ改良法ヲ傳習  
シタリ而シテ尙改善ヲ加ヘ當業者ヲシテ大ニ斯法ニ依ラシムルコトヲ期ス

山口縣

一 新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 十貫目ニ付 六十三錢三厘

舊製炭 全 五十二錢

三ヶ年間新舊兩法發達ノ跡ヲ觀察スルトキハ玖珂、熊毛、都濃、厚狹、美禰、豊浦ノ各郡ハ一定ノ進路ナク大  
津阿武ノ二郡ハ比較上新法逐年退歩スルヲ見ル然ルニ佐波吉敷ノ二郡ハ之ニ反シテ逐年新法比較的進歩シ就中  
吉敷郡ハ最トモ好成绩ヲ示スカ如シ

今新法ノ長短ニ關スル當業者ノ云フ所ヲ綜合スルトキハ左ノ如シ



新法ノ長トスル点

- イ、築竈ノ費用少シ
- ロ、製炭ノ部合多シ
- ハ、製炭ノ價高シ
- ニ、炭質堅硬ニシテ火留リ良シ
- ホ、小材ヲ用テ製炭スルコトヲ得

新法ノ短所

- イ、大竈ヲ築クニ適セス從ツテ一竈ノ製炭量少シ
- ロ、炭材ノ切り方及詰方及焼方ニ多クノ工夫ヲ要ス
- ハ、木炭ニ火ノ付方悪シ
- ニ、販路未タ大ナラス

要スルニ新法ノ十分發達セサルハ一ハ當業者ノ尙其法ニ熟達セサルト舊法ニ比シ多量ノ製炭ニ適セザルトニハ需用者ニ於テ炭價ノ高キト火付キ惡シキ等ノ点ヨリ未タ普ク歡迎セラレサルニ依ルモノナルヘシ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

改良製炭法普及ノ爲メ明治三十三年ヨリ廣島縣人稻崎圭三ヲ聘シ各部ヲ巡回シテ實地指導ヲナサシメ爾來毎年約三ヶ月間同人ヲシテ新法ヲ傳習セシム

和歌山縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

日高郡ニテハ新炭平均一貫目ニ付十六錢位ニシテ市場ニ於ケル批評ハ舊製ニ優ルモノ如シ而シテ坂神地方ハ殊

ニ新炭ヲ嗜好スルノ狀況ナリ然レトモ新炭ハ其製造高舊炭ノ二割八分餘ニ過キヌ概ネ川中早蘇窪川ニ於テ製出シ未タ一般之ニ化セサルヲ以テ漸次獎勵ノ方針ナリ

舊炭ハ壹貫目ニ付十四錢位ニシテ市場ニ於ケル批評ハ古來日高炭ト呼稱シ到ル處ニ濫用セラレ從テ販路モ年々逐テ擴張シ現今殆ント需用ヲ充タスコト能ハサルノ狀態ニシテ荷物ノ停滯等毫モナク他府縣ヨリノ傭聘ニ應シテ製法ノ傳授ニ出向スルモノアリ又當業者ノ製炭法視察等ニ來郡スルモノアリ以テ本品ノ如何ニ市場ノ好評ヲ博シツ、アルヲ推知スルニ足ル

東牟婁郡ニテハ新製炭ナシ舊炭製價格ハ一貫目八錢西牟婁郡ニテハ舊製炭ノ價格ハ平均二十五錢ヲ保テリ市場ニ於ケル批評ハ包裝中蓋柴及札木ノ量目多クシテ炭其者ノ貫數ヲ自ラ減殺スルトノコトナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

日高郡ニテハ林業講習會ノ開設村費經營ニ屬スル道路ノ改修等ハ即チ間接ノ獎勵タリ而シテ縣ノ施設トシテハ未タ設計ナシ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

日高郡ニ於ケル狀況 明治十八年七月西牟婁郡富田坂以西日高郡ノ内南道村外三十五ヶ村同業者組合規約ヲ結ビ又明治二十年四月船津村外二十八ヶ村木炭製造同業組合ノ設ケアリシモ不知不識ノ裡自然消滅ニ期シ目下南部町ニ於テ左記申合規約ノ下ニ各舊弊ヲ矯正シ品質ノ改良販賣ノ擴張ヲ圖リツ、アルモノ、外組合ノ存立セルモノナシ然レトモ申合位ニ止マルトキハ目的ヲ達スルニ遺憾ノ点アルヲ免レヌ依テ此際組合ヲ再興シ斯業ノ改良進歩ヲ企圖セントスルノ狀況ナリ而シテ其效果ハ相互勵精事ニ從フヲ以テ自然品質ヲ善良ナラシメ又需用者ニ於テモ好策ニ陷ルノ虞ナキヲ以テ自然信用ヲ高メ效果見ルヘキモノアリ

南部木炭商組合規約書



第一條 此組合ハ木炭營業上取締ノ爲メ同業組合規約ヲ設ケ其名稱ヲ南部木炭組合ト稱ス

第二條 當組合地區内ニ於テ該業ヲ營ムモノ萬一此組合ニ加盟セサルトキハ同業者ハ船舶積入等拒絕シ其實業組合事務所ニ届出ツヘキ事同業者ニシテ組合外ト積合セシモノハ違約金トシテ金拾圓ヲ出サシム

第三條 組合事務所ハ當分南部町大字北道二百三十番地ヲ以テ假用ス

第四條 當組合木炭賣買上ニ關スル舊來ノ弊習ヲ洗滌シ需用者ノ便益ヲ謀リ製品ヲ改良シテ販路ノ擴張ヲ企圖シ該品ノ產出益盛大ナラシメ以テ地方ノ繁榮ヲ希望ス故ニ苟モ一己ノ利ヲ得ンカ爲メ不正ノ所業ヲナシ需用者ノ信用ヲ失シ組合ノ体面ヲ汚シ地方生産ノ發達ヲ害セサル様厚ク注意シ左ノ條項ヲ遵守スルモノトス

第五條 當組合ハ木炭容實相互ニ注意シ輕目儀ト見做ストキハ各自商標ヲ附記スルコトヲ得ス

第六條 組合中ニ於テ新ニ炭仕出人及炭燒人ト取引セントスルトキハ住所番地姓名ヲ記載シ幹事ヘ差出シ組合中關係ノ有無ヲ質シ無關係ノ証ヲ得タル後取引ヲナスヘシ

本條ニ違犯者ハ金拾圓ヲ出サシムル

第七條 炭燒人ヨリ現金ヲ以テ買炭ヲナサントスルトキハ渾テ第六條ノ手順ヲナスヘシ

第八條 山方人名簿ハ常ニ幹事ノ手元ニ備置假令組合員タリトモ三名以上ノ立會ニアラサレハ閱覽スルコトヲ許サス

第九條 第六條ノ場合ニ於テ組合員ニ關係者アルモ疑点アルトキハ其者ヨリ關係ノ事實ヲ明細ニ表示シ幹事ニ呈出セシムヘシ若シ其事實カ虛偽ナルトキハ取引ヲ妨害シタル者ト認メ金拾圓ヲ出サシムヘシ

第十條 山内ノモノ又ハ運搬人カ擔買木炭ノ買入ヲ乞フ時雖トモ組合中ノ仕入品タルヤ否判然シカキヲ以テ一切ヲ買入スヘカラス

第十一條 炭仕出シ及仕入炭ハ一切分ケ出シヲ許サ、ルコト

但甲ノ問屋ヘ現今炭仕出シアルモ金品貸與ナキトキハ乙ノ問屋ヘ分ケ出シスルモ承諾スル事アルヘシ

第十二條 第十一條但書ノ場合ニハ乙ハ必ス甲ノ承諾ヲ得サルヘカラス若シ乙ニシテ其承諾ヲ得ズ猥リニ取引ヲ開始シ或ハ甲ニシテ承諾後無實ノ情實ヲ捏造シ乙者ノ營業ヲ妨害スルトキハ其違約者ヨリ金拾圓ヲ差出サシムヘシ

但其一季後ハ甲乙隨意タルヘシ

第十三條 炭燒一家族及仕立人ニ於テ親子又ハ他人ノ名稱ヲ用ヒ取引ヲ申込マレタル者ハ其製炭ヲ預リ置組合中ヘ照會シ關係ノ有無ヲ質シタル後取引スヘシ

本條違犯者ハ金五圓ヲ出サシムヘシ

第十四條 炭仕出入及炭燒人ト取引契約後其者ノ都合上山林ヲ他ノ組合員ニ轉賣セントスルトキハ必ス前者ノ計算ヲ遂ケタル後ニアラレサハ後者取引スヘカラス万一違犯シタルモノハ違約金拾圓ヲ出サシム

第十五條 組合員ハ炭仕出シ人及炭燒人名簿ヲ製シ幹事ヘ差出シ置クヘシ而シテ仕入金勘定簿ノ上ハ其旨幹事ニ報告スヘシ若シ報告遲滞セントキハ違約金拾圓ヲ出サシム

第十六條 炭燒人ニテ組合員中甲乙丙丁ノ四戸ニ借金アルトキハ内一戸ヲ荷出シ問屋ト定メシメ其他三戸ノ借金ハ其適宜ノ方法ヲ設ケ此際完済セシムヘシ

但本文三戸ノ借金完済セサル内ハ荷受問屋ヨリモ一切金品貸與セサルモノトス

第十七條 山方取引帳表附セントキハ直ニ受取書ヲ呈スベシ



第十八條 組合員タリトモ當地區内ニ支店分店ヲ開設アルトキハ一店毎ニ組合ニ加入スヘキモノトス

第十九條 炭運搬賃銀ハ當組合ノ協議ニ付シ道路ノ遠近ヲ酌量シ高低ナキ様相定支拂ヲナスヘシ

第二十條 當地區内ニ於テ船籍及船頭人名簿ヲ製シ事務所ニ備ヘ置キ木炭廻送中不正ノ所爲アルカ又ハ仕切金等ニ引負金等ヲ生セシトキハ相當之ヲ處分シ當組合中ハ一切荷物積入セサルモノトス

第二十一條 當組合ノ信認金ハ各貳拾圓トス新規營業人ハ信認金壹百圓トス三年間繼續後ハ貳拾圓トシ八拾圓ハ返戻ス

第二十二條 幹事ハ事務所ノ帳簿ヲ擔當シ犯則者ヲ處分シ議案ヲ起草シ或ハ木炭品位改良等ノ事ヲ司サトラシム

第二十三條 幹事ハ用件ノ都合ニ依リ臨時人夫ヲ雇入ル、コトヲ得

第二十四條 總テ違約金ハ二日間ニ事務所ヘ完納スヘシ

第二十五條 幹事ハ取調ノ爲必要ヲ生シタル場合ニハ組合營業者ノ帳簿ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十六條 幹事ハ取調ノ爲必要ヲ生シタル場合ニハ組合營業人ノ帳簿ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十七條 違約金ノ處分ハ渾テ組合員ノ協議ニ附ス

第二十八條 今後ノ景況ニ依リ協議ノ上此規約ヲ改正スルコトアルヘシ

西牟婁郡ニ於ケル狀況 曩ニ記載ノ蓋柴及札木ノ改良其他種々ノ方面ニ涉リ改良ヲ講スヘキ必要ヲ認メ今ヤ熊野山林會ナル者ヲ設置シ着々改良ノ實ヲ舉ゴトニ努メリ

野山林會ナル者ヲ設置シ着々改良ノ實ヲ舉ゴトニ努メリ

徳島縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新舊製炭市場ニ於ケル價格ハ平均舊炭一貫目ニ付金七錢新炭一貫目ニ付金九錢ニシテ舊炭ハ概シテ炭化ノ不充

分ナルト炭質軟弱ニシテ粉炭ヲ生シ俄變整一ナラサルノミナラス不完全ナルカ爲メ市場ニ於テ排斥セララル、ノ事實アリ然ルニ新炭ハ品質良好ニシテ形態光澤引火并ニ耐火時間長キ等舊炭ニ比シ優レルヲ以テ高評アリト雖モ改良製炭法ノ實施ハ尙ホ淺ク從テ産額僅少ナルカ故ニ未タ聲價ヲ昂ムルニ至ラス

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭ノ改良ニ就テハ昨三十八年度本縣山林會ヘ縣費ヲ補助シ巡回教師ヲ雇聘セシメ縣下各郡ニ傳習所ヲ設ケ之カ改良普及ニ努力セシメツ、アリシカ事業上遺憾ノ點ナキニアラサルヲ以テ本事業ハ本年度ヨリ縣ニ於テ繼承シ巡回教師ヲ雇聘シ目下順次各郡ニ傳習所ヲ設ケ着々改良普及ヲ圖リツ、アリ又品質ノ改良ト相俟テ俄裝ヲ改善一定シ市場ノ聲價ヲ發揚スルノ切要ナルヲ認メ諭告ヲ發シ之カ改善ニ勉メツ、アリ

香川縣

記載スヘキ事項ナシ

愛媛縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 十貫目ニ付 平均金六十八錢三厘

舊製炭 同 五十九錢二厘

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭法ニ關シテハ改良スヘキ餘地アルヲ認ムルヲ以テ教師ヲ雇聘シ要所ニ於テ講習ヲ開催スル見込ナリ

高知縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評并ニ獎勵ノ方針其施設

縣下ニ於ケル木炭ノ製造ニ關シテハ先年朽木縣ヨリ教師田中長嶺ヲ聘シ縣内營業者ニ就キ巡回傳習ヲ行ヒタル



外別ニ製炭ノ改良ニ關シ施設獎勵ヲ加ヘタルコトナシ隨テ改良法ノ如キモ遍ク普及スルニ至ラス舊法ニ據ルモノ其大部分ヲ占ム製炭ノ歩合ハ原料種類製法ノ巧拙ニ依リ相違アルモ最多二十五噸最少十五噸トス炭價モ亦木炭ノ種類ニ依リ異ナルモ十貫目ニ對スル平均價格六十錢ヲ下ラス且舊法ニ軍需品トシテ巨額ノ調達ヲ爲セン以來品質儀裝等ニ多少ノ改良ヲ加ヘラレタルモノアリテ市場ノ弊價ハ比較的好評アルモノ、如シ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果  
木炭ノ組合ニ關シテハ幡多郡ニ於ケル製造者販賣者共同シテ幡多木炭改良同業組合ヲ組織シ爾來輸出品ニ對シ品質荷造ノ檢査ヲ行ヒ以テ其等ノ改良ヲ企圖シ來リシカ難ニ日露ノ戰役ニ際シ更ニ幡多木炭輸出協會ト稱スル臨時の組合ヲ組織シ品位儀裝ニ對シ一層嚴密檢査ヲ行ヒシニ其効果頗ル顯著ナルモノアリ

福岡縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭一貫目ノ價格ハ平均十錢ニシテ舊製炭ハ八錢ナリ

新製炭ハ舊製炭ニ比シ導火速ナルモ持久力弱ク需用者間ノ批評宜シカラヌ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針及施設

先年縣下各郡ニ於テ實業教師ヲ聘シ郡費ヲ以テ新製炭ノ傳習ヲ爲サシメ又町村ニ於テモ補助費ヲ支出シ專ラ獎勵ヲナセシ結果稍舊製法ヲ改ムルニ至リシモ製造者不熟ノ爲間々不良品ヲ製造シ漸次需用者ヲ減スルニ至リ現今製造シツ、アルハ其小部分ニ止レルモ今新炭ノ製造ハ益々獎勵スルノ方針ナリ

大分縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 十貫目ノ市價 七十五錢ヨリ八十錢位

舊製炭 全 上 七十錢ヨリ七十五錢位

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

木炭ハ本縣ノ主要物産ニシテ製法ノ改良ヲ計リ營業上ノ弊害ヲ矯正シ市場ノ信用ヲ増進セシムルヲ以テ獎勵ノ方針トナシ居ルモ之カ施設トシテ別ニ舉クルニ足ルヘキモノナキモ重要物産同業組合ノ組織又ハ改良木炭傳習所、設置等ヲ獎勵シタル爲メ縣下二郡ハ已ニ組合ヲ組織シテ事業ヲ執行シ居リ又ハ郡費ヲ以テ教師ヲ聘シ傳習所ヲ開始シ居ル所アリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

同業組合ヲ組織シアルハ管下下毛郡及南海郡ニシテ何レモ日尙淺キモ重ニ檢査事業ヲ實行スルニヨリ粗製ヲ防キ儀裝ヲ改良シ製品ヲ一定シタル爲メ稍市場ノ信用ヲ獲得スルニ至レリ

佐賀縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 百斤ニ付 金八十錢乃至金壹圓五十錢

舊製炭 大差ナシ

新製炭ノ方好評ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭事業ノ經濟及斯業ノ改良發達ヲ期スルヲ以テ目的トシ專ラ改良燒ヲ獎勵シ去ル明治三十六年及同三十七年熊本縣ヨリ改良製炭教師ヲ聘用シテ炭竈ノ構造及製炭改良等ヲ指導セシメ又當業者ニ於テ各地ノ改良法ヲ視察シタル結果漸次其趣ヲ改メツ、アルモ未タ其目的ヲ達スルニ至ラス

熊本縣



一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭 五十斤俵壹俵ニ付 金五十七錢

舊製炭 全 金五十錢

新製炭ハ概シテ炭質堅固ニシテ火保能ク火力モ亦強長ナルヲ以テ養蠶家旅舍料理店菓子商ノ如キ營業者ニ於テハ大ニ之ヲ歡迎スト雖モ製炭ノ供給多カラサルト舊製品ニ比シ價格稍高價ナルトニ依リ多數需用者ハ新製ノ良否識別ナク單ニ舊製炭ノ安價ナルト火移リノ早キヲ以テ好メルモノ、如シ從テ管内ノ市場ニ在リテハ自然之ニ重キヲ置ケリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

明治二十六年頃迄ハ管内ノ製炭細需用ニ伴ヒ著シキ變動ヲ來サリシカ爲メ一定ノ獎勵ヲ施シタルコトナシ明治廿七八年日清戰役ニ際シ噸ニ長崎、福岡地方ニ輸出ノ途ヲ開キ爲ニ著シキ變動ヲ來シ忽チ供給ハ需要ニ伴フ能ハサルニ至レリ從テ價格モ騰貴シ營業者モ増加スルヲ以テ原料木ノ供給上便宜ヲ與ヘテ製炭ノ改良ヲ促シ更ニ進ムテ明治三十三年度ヨリ同三十五年度迄三ヶ年間縣費ヲ以テ之カ教師トシテ田中長嶺ヲ招聘シ管内各郡ニ傳習所ヲ開設シ營業者若ハ他ノ希望者ヲシテ入所セシメタリ其結果修得證明書ヲ得ヘタルモノ二百五十名ニ及ヘリ然レトモ未タ其發展ノ著シキヲ見ル能ハサル主タル原因ハ

- (1) 新式營業者ハ資本金ニ乏シキ事
  - (2) 新式築竈ハ舊式ニ比較シ寸法小ナル爲メ製炭量從テ小額ナルト(製炭量合ノ其否ヲ顯シス)又炭材ヲ一定ノ寸尺ニ小切スルノ手數ヲ厭フ事
  - (3) 俵裝品質一定セシテ區々ニ販賣スルヲ以テ市場聲價ヲ得サル事
- 以上一二ノ欠點ニ付テハ組合ヲ組織セシメ之ニ對シテハ竈ノ構造ヲ大形ニ改良セシムルノ必要ヲ認メ之カ組織

ト構造ノ研究ニ付テハ專ラ獎勵シツ、アリ

一木炭ニ關スル組合ノ組織實況及効果

組合ノ設置ハ獎勵中ニシテ現今既設ノモノハ天草郡一郡アルノミ其ノ組織ハ  
(1) 木炭改良同業組合ト稱シ定款ヲ設ケ總則役員會議會員加入及脫退組合員ノ權利義務解散規則ノ十章トス  
(2) 販賣品ノ検査所ヲ數個所ニ設置シ品質ヲ一定ニ調査シ合格ノモノハ検査済ノ印章ヲ捺シ市場若ハ仲買人ニ賣却ス依テ同郡ニアリテハ此印章ナキモノハ一割以上安價ニ取引セラル、ヲ以テ舊式營業者モ自然改良ニ傾向ノ狀況ヲ呈シ來レリ

宮崎縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

木炭百俵(壹俵ハ八貫八百匁)價格ハ赤江港ニ於テ三十五圓乃至四十二圓位東海及美々津港ニ於テ四十圓乃至四十七圓位神戸大坂ニ於テハ五十圓ヨリ七十四圓位迄ニ取引セラル  
管内ノ製炭ハ種類ニヨリ區分セシ込ミト稱スル各樹ノ混淆燻ナルカ故ニ一部人士ヨリ排斥セラル、モ炭質堅硬ニシテ發火点高キト保火時間ノ長キトニヨリ伏見京都附近ノ製茶家ニ賞用セラル

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

近來深山開發雜木利用ノ說大ニ行ハレ爲メニ京阪附近ノ諸縣ヨリ續々木炭ヲ製出シ價格モ多少低下スル一方トナレリ本縣ノ如キ需用地ニ遠隔スル地方ハ之ト競争スル能ハス收支償ハサルモノアルニ至レリ然レトモ本縣ハ多大ノ雜木森林アルヲ以テ之カ利用ノ途ヲ講セサレハ林相ノ更新得テ期スヘカラサルニヨリ極力製炭ノ改良ヲ獎勵スル見込ナルモ目今ノ形勢ニテハ大ナル發展ハ望ムヘカラス

鹿児島縣



一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

新製炭十貫目ノ價格金五十錢舊製炭全上金四十五錢内外ニシテ新炭ノ方好評ナリ

一製炭ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

明治三十五年縣改良木炭製造傳習會開設以來昨三十八年迄十六ヶ所ニ村傳習會開設益々改良炭獎勵ノ方針ナル

モ目下別ニ施設セシコトナシ

沖繩縣

一新舊製炭ニ對スル市場ノ價格及批評

製炭市場ノ價格ハ各郡多少ノ差ハアランド平均價格百斤ニ付七十七錢五厘新製炭ナキヲ以テ舊製炭ニ對スル批評

ナシ

木醋液ニ關スル事項

各地方ニ行ハル、醋酸石灰及醋酸鐵ノ製造法ヲ見ルニ缺点ヲ有スルモノ尠カラスシテ爲ニ勞スル所多キニ拘ラス品質惡シキモノヲ產出スルノ不利アルニヨリ之ヲ一言センニ

第一醋酸石灰製造ニ就テ

木醋液中ニ含有スル醋酸ノ量ハ決シテ一定スルモノニアラス炭材ノ乾燥炭材ノ種類炭竈ノ種別炭化ノ狀況等ニヨリテ悉ク異ナリ然シテ醋酸含有量ヲ鑑ミスシテ石灰ヲ加ヘ若シ含有ノ醋酸ヲ中和スルヨリ以上ニ達スル時ハ此醋酸石灰含有液ヲ蒸詰メテ醋酸石灰ヲ製スル際剩餘ノ石灰ハ醋酸石灰ニ混和シ爲ニ含有百分率少キ醋酸石灰トナリ且ツ石灰カ鐵鍋ニ作用シテ醋酸石灰ノ著色ヲ著クスヘシ次ニ醋酸ヲ中和スルニ足ラサル石灰ヲ加フル時ハ殘餘ノ醋酸ハ醋酸石灰液ヲ蒸詰ムル際ニ揮散スヘク之ニ加フルニ醋酸石灰液ヲ蒸詰ムル際醋酸ハ鐵鍋ノ鐵ト作用シ黑色ノ醋酸鐵トナリ著ク醋酸石灰ニ著色ス故ニ良質ノ醋酸石灰ヲ製スルニハ必ス中和點ニ留意セサル可カラズ然モ此中和點ニ留意

スルコトハ多少ノ困難ナキニアラサルヲ以テ普通何石ノ木醋液ニ何貫目ノ石灰ヲ加フヘシト教ユレトモソノ不可ナルハ前述ノ如シ又或地方ニテハ石灰ヲ中和點ヨリ少シク加フヘシト云フモノアリ之レ實際ニ於テハ中和點ヨリ少ク石灰ヲ加フルニアラス如何トナレハ石灰ハ水ニ溶解スルコト少キヲ以テ一時ニ多量ヲ加フル時ハ其石灰ハ直ニ醋酸ト化合スルヲ得スシテ桶底ニ沈澱スヘシ故ニ上層ノ液ハ酸性ヲ現ハスカ如キモ時ヲ經ルニ從ヒ沈澱セル石灰ハ醋酸ト化合シ尙剩レルモノハ水ニ溶ケテ反テ其液カ「アルカリ」性ヲ呈スルニ至ルヘシ故ニ石灰ヲ加ヘテ直ニ其中和點ヲ試驗紙ニテ檢シ砂或ハ袋ニテ濾スヘク尙石灰ノ槽底ニ沈ムモノアレハ之ヲ捨ツルコトナク之ニ新ニ木醋液ヲ加ニテ醋酸石灰トナサシムヘク其石灰ノ最少キ時ハ之ヲ補フニ足ル石灰ヲ加フヘシ此砂或ハ袋ニテ濾スコトカ手數ヲ要スルトセハ石灰ヲ加ヘタル後中和槽底ニ沈降スルヲ俟テ靜ニ槽ヲ傾ケテ上澄液ヲ他槽ニ移スモ可ナリ之レ石灰ノ水ニ溶解スル量ハ僅少ナレハ例令石灰ノ加入量多ク其幾分カ水ニ溶解ストナスモ溶解セヌシテ混和スルモノヲ加フルヨリハ醋酸石灰ニ石灰ヲ混スルコト少ナケレハナリ之ヲ要スルニ木醋液ノ石數ニヨリ一定ノ石灰ヲ加フルハ決シテ良質ノ醋酸石灰ヲ得ル所以ニアラサルヲ以テ大ニ注意スルヲ要ス

醋酸石灰ノ溶液ヲ蒸詰ムル時ニモ功程ヲ急クタメ火力ヲ強フスルハ之レ大ナル誤ナリ醋酸石灰ノ溶液ノ稀薄ナル間ハ火力強キモ害少ク次第二濃厚ノ液トナリ鍋ノ側ニ粘着スルニ至レハ鍋ニ粘着スル醋酸石灰ハ鍋ノ熱度ヲ受ケテ容易ニ「アセトン」ニ分解スレハナリ故ニ醋酸石灰ノ溶液ヲ蒸詰ムルニハ竈ヲ三聯立トナシ最初ノ竈ニハ稀薄ノ醋酸石灰ノ溶解ヲ入レツ、少シク濃厚トナリシモノヲ第二ノ鍋殆ト凝固セルモノヲ入レタル鍋ヲ火ヨリ最モ遠キ第三ノ竈ニ掛ケ斯クシテ弱火ニテ全ク乾燥セシムヘシ然ラサレハ不良ノ醋酸石灰トナリ勞スル所多ク收ムル所少キモノトス

次ニ埼玉縣ノ報告中ニハ先ツ木醋液ヲ蒸詰メテ濃厚トナスカ如キコトアルモ之レ大ナル誤リナリ蓋シ醋酸ハ石灰、曹達、鐵、銅、鉛等ト化合シテ種類トナレバ不揮發性トナレドモ遊離セル醋酸ハ揮發性ニシテ常溫ニ於テモ尙ホ且



ツ絶エス揮散ス况ンヤ之ヲ温ムルニ於テヤ然ルニ木醋液中ニ醋酸ハ遊離シテ存スルニヨリ之ヲ温ムルハ之レ恰モ木醋液採集ノ主目的物ヲ強テ失フガ如キ行爲ニ屬スレバナリ

第二醋酸鐵製造ニ就テ

木醋酸中ノ醋液下鐵屑或ハ廢鐵トノ化爲ハ甚遲緩ニシテ十數日ニ渉ルコトアリ之ヲ促スハ加熱ニアレトモ加熱ノ度高キニ過クル時ハ良質ノ醋酸鐵トナラス故ニ加熱セサルヲ最良トシ加熱スルモ攝氏六十度ヲ超ユヘカラス又既ニ醋酸鐵トナリタルモノヲ煮詰ムルニモ温度高キ時ハ醋酸鐵ノ品質ヲ惡クスルニヨリ大ニ注意セサルヘカラス次ニ既ニ煮詰メテ製品トナリタルモノモ密閉シテ貯フルニアラサレハ空氣ノ作用ニテ次第ニ變質スルニヨリ之ヲ大ニ注意スキコトナリトス

次ニ掲クル者ハ各府縣ニ行ハルノ方法ヲ各地方廳ノ報告ニヨリ調査セシモノニシテ決シテ摸範的ノモノニアラス故ニ其事業ヲ企テントスルモノハ熟慮研究ノ要アルモノトス

北海道

一炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

本項以下五項ニ對シテハ主トシテ函館支廳管内茅部郡森村及浦河支廳管内三石郡ニ於テ製造スル裝置ニ就テ說明ス其ノ使用器械ハ甲號乙號圖面ノ通り

茅部郡森村製造所ノ冷却器ハ土管ヲ用ヒ其後方七間ニ至リテ二三尺高ク其高低ノ度ハ炭竈ノ大小噴烟ノ強弱ニ依リテ加減ヲナス其概要ハ乙號圖面ノ通りナリ

一醋酸採收ノ炭額、炭質、炭化時間ニ及ボス影響

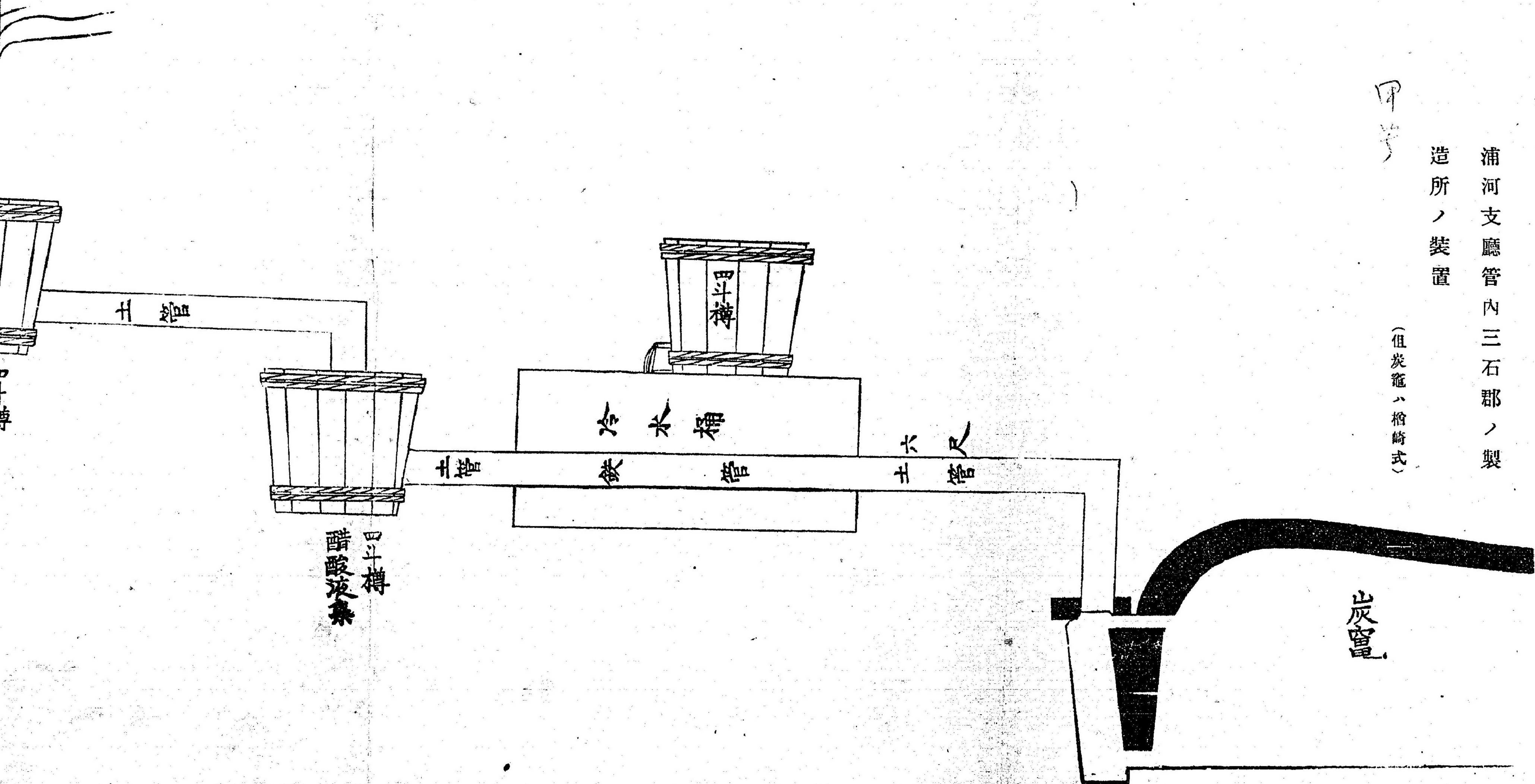
何等影響ナシ



浦河支廳管内三石郡ノ製  
造所ノ裝置

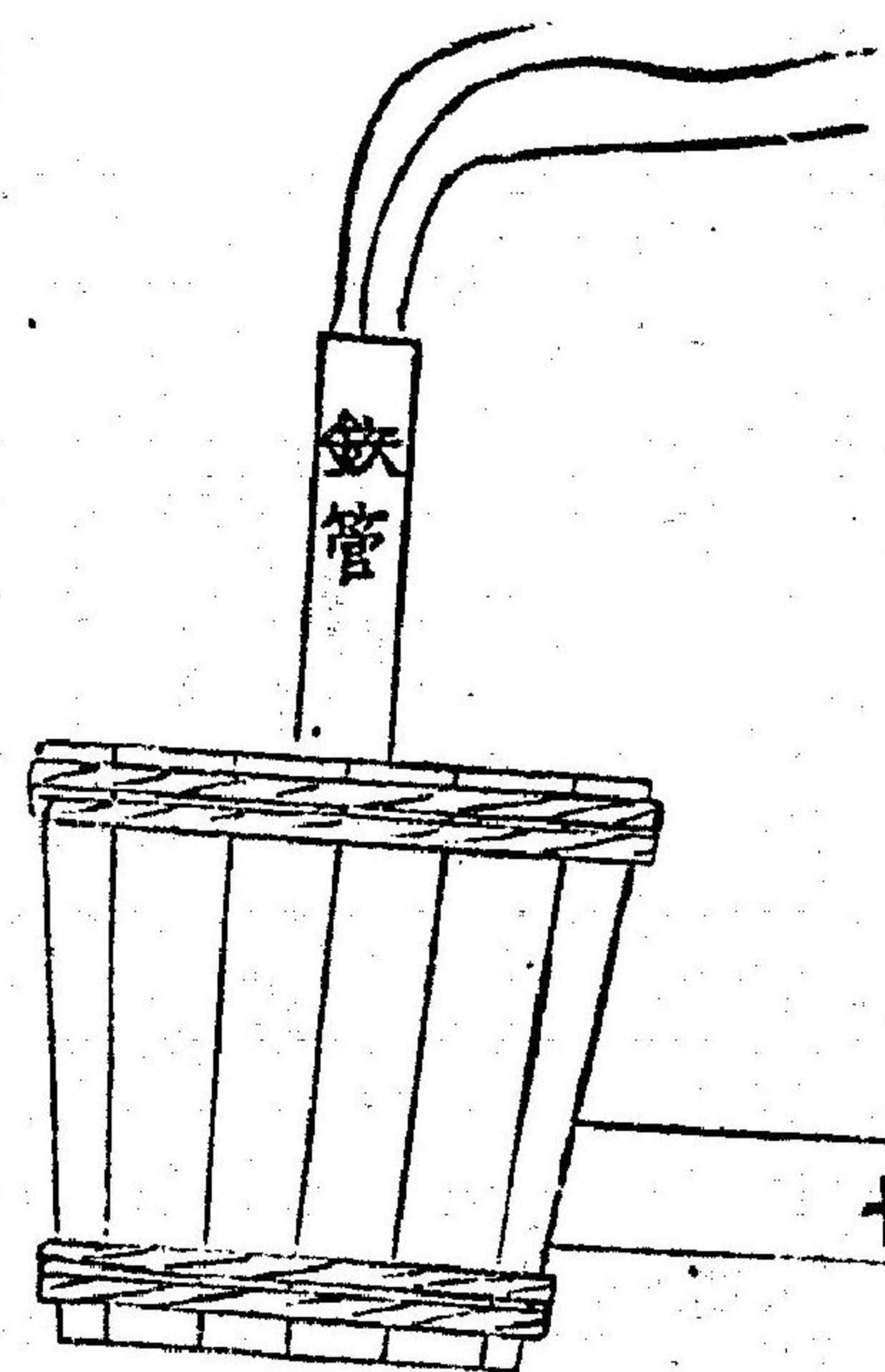
甲

(但炭竈ハ檜崎式)

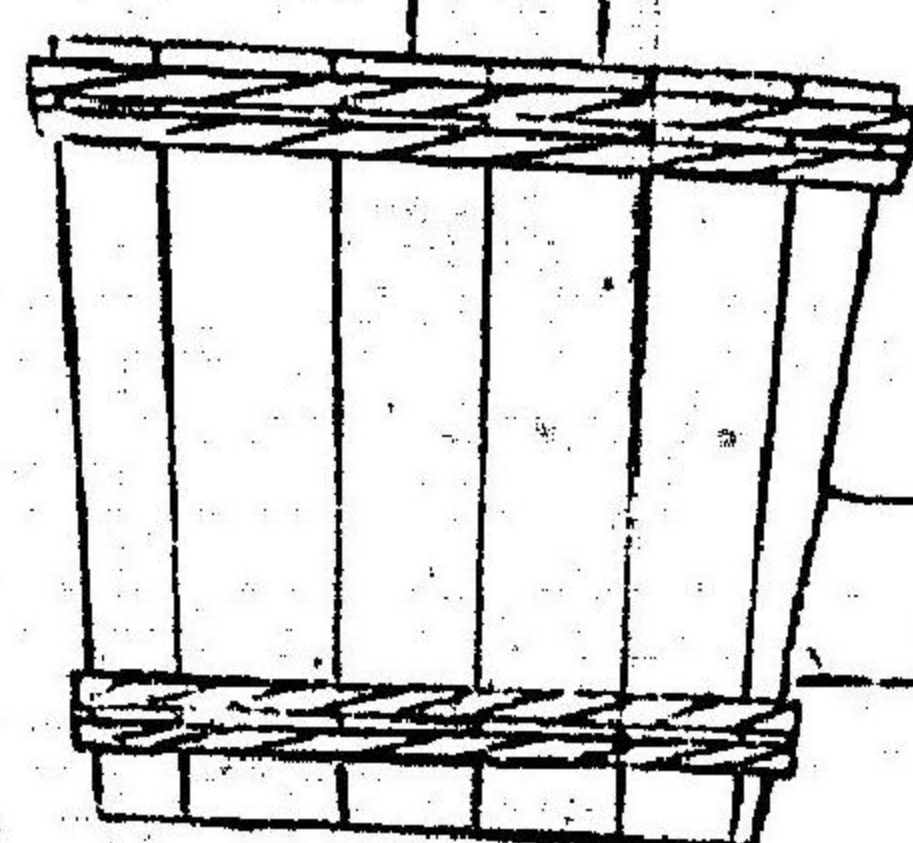
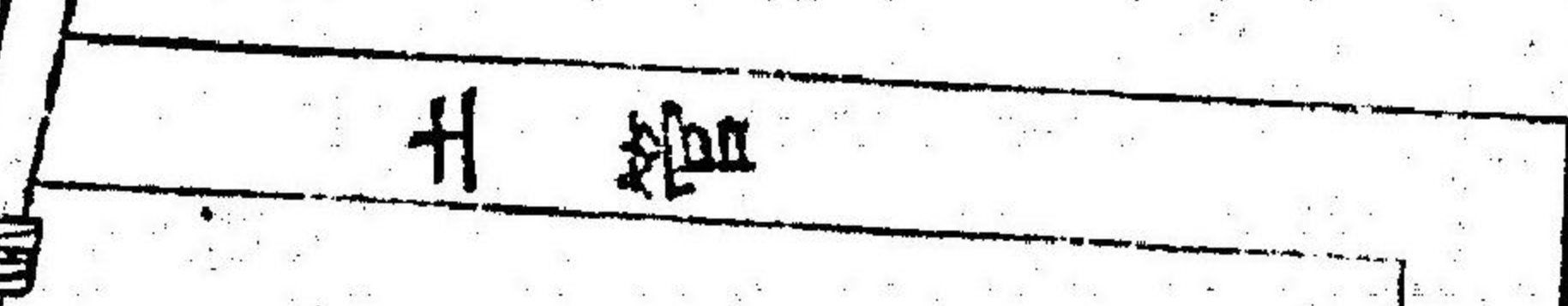




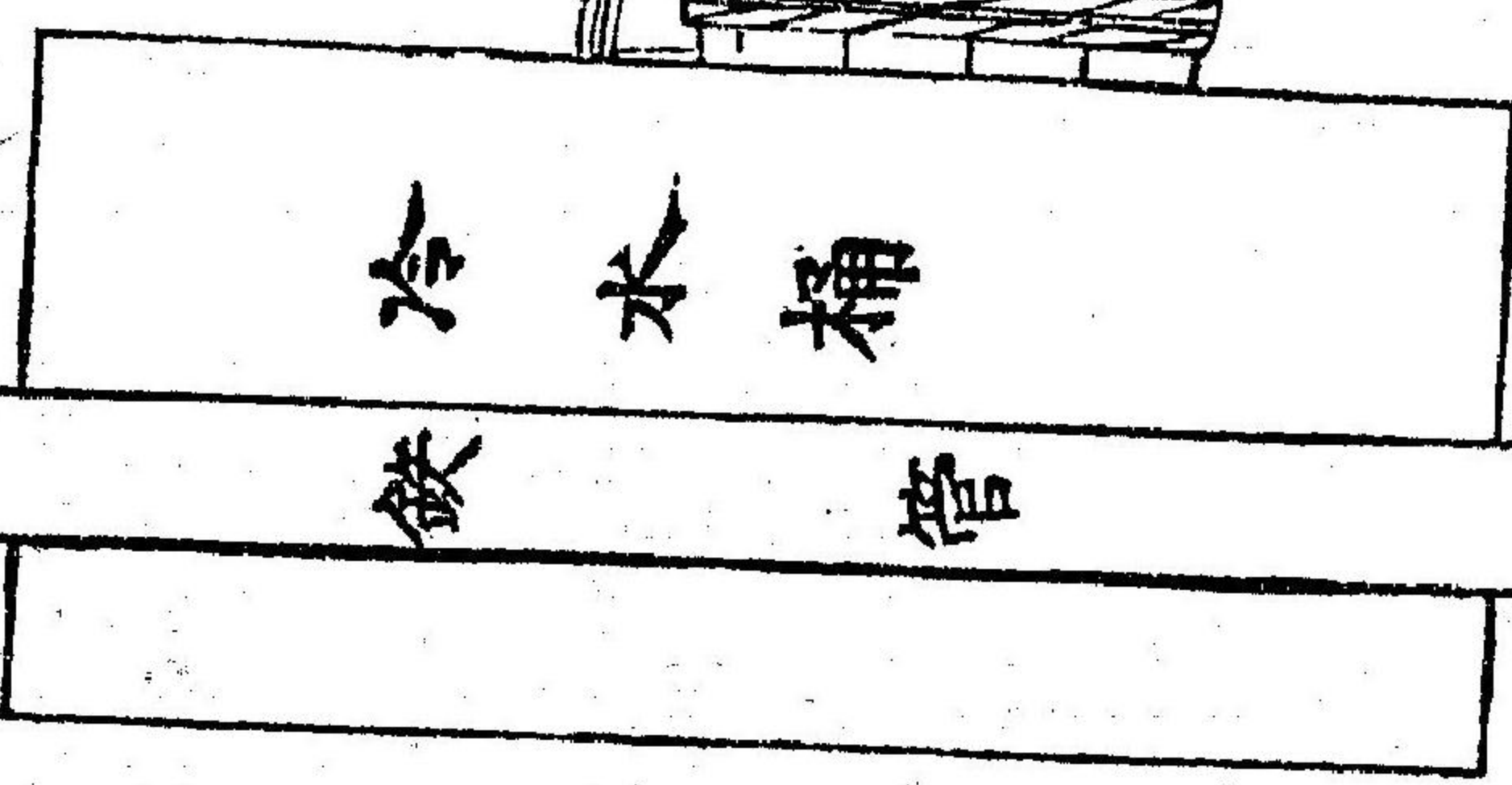
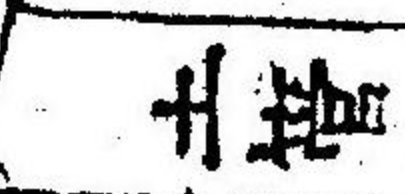
炭電ヲ延長凡、四間半



四斗樽  
醋酸液集

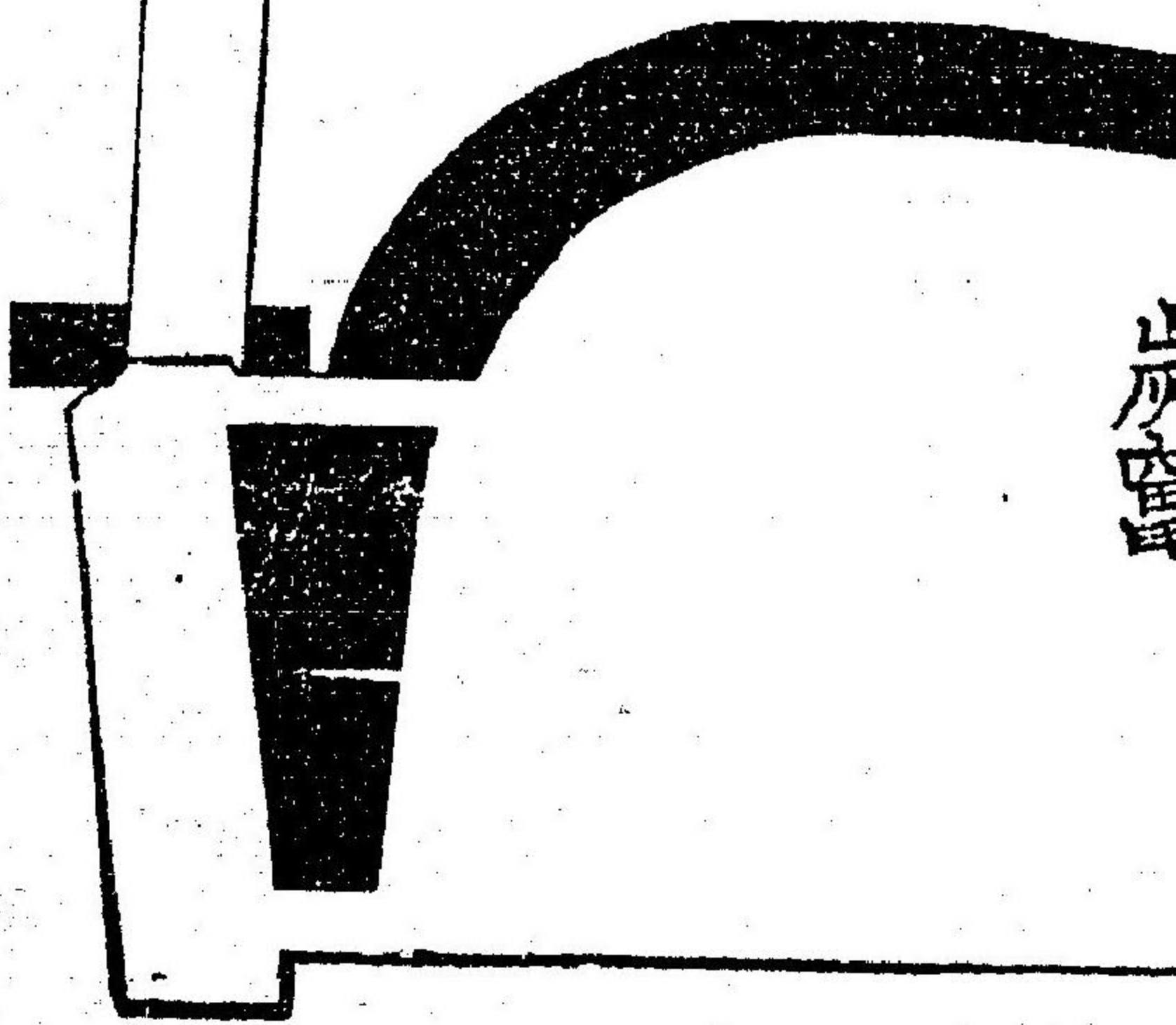


四斗樽  
醋酸液集



冷水桶  
鉄管

六尺  
土管



土管



一木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

茅部郡森村製造所ハ百貫目ニ對シ一石三斗余夏季ハ冬季ニ比シ四分ノ一春秋ハ約四分ノ二ノ割合ナリ三石郡製造所ハ百貫目ニ付八斗内外ナリ

一木醋液ヨリ醋酸石灰、醋酸鐵、醋酸曹達等ノ製法

茅部郡森村製造法、石灰中和法ハ木醋ヲ溜桶ニ一週間以上放置シ自然ニタールヲ分離シ液面ニ浮遊スルタールヲ除キ其上溶液ヲ中和桶ニ導キ石灰ヲ少シツ、加ヘツ、攪拌シテ中和シ三、四時間放置シ石灰ノ含有スル汚物ヲ沈止セシメ又其浮遊スルタールヲ除キ混和ス中和石灰量ハ木醋ノ濃度ニ依リ一定シ難キモ三貫目内外トス三石郡醋酸石灰製造法ハ試験紙ニテ石灰加合ノ分量ヲ計リ平鍋ニテ煎詰メ乾燥ス

一製品ノ荷造法

茅部郡森村ノ製造所ハ上等ノ以ニ入レ横三ヶ所縦二ヶ所火繩ヲ以テ緊括ス

三石郡製造所ハ蓮包ミトス

一製品ノ販路及價格

茅部郡森村製造所ハ日本醋酸製造株式會社及靜岡縣志太郡島田町北河製品所へ販賣ス價格ハ一貫目ニ付二十五錢ナリ

三石郡製造所ハ日本醋酸製造株式會社へ一貫目代三十六錢ニテ販賣ス

一木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

本項ニ對シテハ現時特設事業ナシト雖モ林業巡回教師カ製造法ヲ傳習スルニ當リ之カ製造ヲ口述獎勵シツ、アリ函館支廳ニ在テハ三十五年以降展覽獎勵ヲ加ヘ技術者ノ派遣ヲ請ヒ講話及ヒ實地ノ指導ヲ行ヒ或ハ斯業ニ關スル印刷物ヲ配付スル等誘掖ニ勉メタリト雖モ之ニ從事スルモノ極メテ少ナク現今僅ニ一人ノミ然モ茅部郡森村



ニ於テハ地方生産力ノ發達上頗ル有望ナルヲ認メ木炭業者ヲ勸誘シ村費ヲ以テ從業者ニ補助スル等獎勵ニ意ヲ  
 サルヲ以テ早晚斯業ノ興起ヲ見ルニ至ラン  
 浦河支廳ニ在テハ毎ニ講習指導ニ努ムト雖モ製品ノ價格低廉ナルニ加ヘ生石灰高價ニシテ計算引合ハス一般ニ  
 躊躇スル處ナリ故ニ確實ナル販路ヲ求メ製品ニ相當ノ價格ヲ保タシムルハ本事業發達ノ上ニ必要ナリ  
 札幌支廳ニ在テハ本事業ニ對シ精々獎勵シ來リタル結果一時ハ之カ實施ヲナセシモノアリシカ經營其當ヲ得サ  
 ル爲メ收支計算上成果ヲ見ルニ至ラス現今ハ一ヶ所ニ止マルモ爾後改良製炭法ノ獎勵ト共ニ之カ製造法ヲ兼修  
 セシメ營業者一般ニ傳習ノ上更ニ實施セシムル方針ナリ  
 其ノ他各支廳ニ於テハ何等獎勵又ハ施設シタルコトナシ

京都府

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

竈ハ土窯ニシテ奥行六尺四寸巾一丈一尺二寸ノ竈床ヨリ築造左右及後方ノ三ヶ所ニ不動口ヲ設ケ土管ヲ通シ四  
 斗樽ニ水ヲ滿タシ烟ヲ冷却スルノ趣向ナリ而シテ土管及杉皮樋ノ長サ十二間ナリ(北桑田郡)  
 炭竈ノ烟ヲ冷却採取スルノ裝置(船井郡ニ於ケル分)ハ別紙圖面ノ通ニシテ竈ノ不動口ニ(イ)直徑五寸長二尺ノ土  
 管ヲ直立シ其土管ニ連續シテ(ロ)杉皮製ノ樋徑五寸長六尺ノモノヲ取附ケ六尺ヲ隔テ四斗樽ヲ据付其樋管ヲ樽内  
 へ差入レ樽桶ニ水ヲ滿ヘ冷却セシメ而シテ前同様ノ樋ヲ通シ第二ノ冷却器タル樽桶へ烟ヲ引キ冷却セシ後樽ヲ  
 直立シテ瓦斯ヲ放散セシムル趣向ナリ但(ホ)ノ杉皮製ノ樋ハ土管ヲ用ユルヲ可トスルモ山間ニテハ土管ヲ得ルニ  
 困難ナルヲ以テ杉皮ヲ代用スルモノナリ  
 以上ノ採集法ハ三村林學士ノ考按ニ係ル採集法ニ準セリ(北海道廳報告中甲號圖ノ冷水冷却裝置  
 ヲ空氣冷却裝置ニ換タルモノト同シ)  
 一 木醋採集ノ炭額炭質炭化時間ニ及ボス影響

木醋採集ノ爲メ炭ノ産額及其品質ニハ少シモ影響ヲ及ボス事ナク炭質良好且火持火力モ充分ナリ又強風ノ日ニ  
 ハ却テ炭化上異狀ナク良炭ノ産出ヲ見ルナリ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

秋期及冬季ハ春夏ノ時期ニ比シ多量ニ採集スルコトヲ得其割合左ノ如シ

秋冬期ハ一窯ニ付三度内外ノ液凡四石

春夏期ハ同

上 三石餘

一 釜ノ生木千五百貫目 産炭額三百二十五貫目

(以上北桑田郡)

船井郡ニテハ一竈ニ對スル木醋採集量ハ縱九尺横十三尺ノ竈ニテ炭材壹千五百貫目ヲ詰メ炭量三百貫目ヲ得ル  
 モノニ對シ三度内至五度ノ液五石位ノ割合ナリ併シ其時機ニ依リ多少ノ差アリ從來ノ經驗ニ依レハ十月下旬ハ  
 採集量尤モ多ク亦晴天ノ日ハ少量ニシテ濃厚ナリ之ニ反シ雨天ナレハ多量ニシテ稀薄ナリ且ツ樹種ヨリ云フト  
 キハヤクシ、してノ類尤モ濃厚ニシテ七度ノ液ヲ得他ノ樹木ニテハ三度内外ナリ

一 木醋液ヨリ醋酸石灰、醋酸鐵、醋酸曹達等ノ製法

北桑田郡ニテハ醋酸石灰ハ液一石ニ石灰四升ヲ混和シ約六時間大釜ニテ蒸詰メ凡四貫目ノ醋酸石灰ヲ得ルナリ  
 同鐵液ハ液一石ニ付凡鐵屑五貫ヲ混シ七八時間蒸テ化合セシメ二十度内外ノモノ二斗乃至三斗ノ鐵液ヲ得ル  
 ナリ

船井郡ニテハ醋酸鐵液ノ製造ハ三四度ノ液一石ニ對シ鐵屑三貫ヲ投シ化合セシメ蒸詰メテ二十度位マテ濃厚ナ  
 ラシメ販出セリ二十度ノ鐵液四斗ヲ製センニハ三四度ノモノ二石ヲ要シ其製法ノ概要ハ大釜ニ容レ蒸詰メ其儘  
 冷却スルトキハ二十度内外ノ液トナル

一 製品ノ荷造法



一 製品ノ販路及價格

販路ハ京都ニテ價格ハ醋酸石灰四貫入壹俵壹圓二十錢全醋酸鐵液ハ四斗樽入壹俵ニ付代金三圓八拾錢ナリ而シテ現今創業日尙淺ク産額少キヲ以テ京都ノ商人ニノミ販賣シ居ルモ將來ハ全地ニ一ノ精製場ヲ設ケ廣ク各地ノ市場ニ販賣セン計画ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
府内一般ノ獎勵方針ニ就テハ未タ確定シタル施設ナシ而シテ船井郡ニテハ該事業獎勵上ヨリ考フルトキハ運搬不便ナル鐵液ヨリモ幸ヒ郡内ニ産出スル石灰ヲ利用シ醋酸石灰ヲ製造スレハ極メテ運搬輕便利多ク故ニ斯業ノ發達ヲ促スニ尤モ捷徑ナリト思料シ之カ醋酸石灰製造ヲ計画中ナリ從來製炭副産物獎勵トシテ或一部ニ於テ醋酸ヲ買上ケテ以テ彼等炭燒業ニ有利ノ事業ナルコトヲ知悉セシメ木醋事業ノ發達ヲ圖リシモノニシテ其成蹟稍可ナリ

兵庫縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル装置

炭竈烟突ヨリ口徑約五寸位ノ土管ヲ眞直ニ其一間ニ付約二寸五分ノ勾配ヲ以テ漸次其端ヲ低クシ其低クシタル端ヨリ更ニ眞直ニ九尺計リ立ツルモノトス  
烟ヲ冷却スル爲メ横ニ引ケル十五間乃至二十間ノ土管ノ間ニ二個若ハ三個ノ四斗樽ヲ据置キ土管ハ此樽ヲ貫通セシメ又此横ニ引ケル土管ノ端即チ勾配ヲ以テ低クシタル端ニ液ヲ受クル樽ヲ据置ク  
横ニ引ケル土管ノ部分ハ可成長キヲ可トスルモノ、如シ而シテ是等烟筒ノ土管ハ長サ三尺口徑五寸位ニシテ土管并ニ樽ノ眼目ニハ粘土ヲ塗り及水烟ノ漏出セサルコトニ注意ス

一 木醋採集ノ炭額、炭質、炭化時間ニ及ボス影響

木醋採集ノ炭額七万二千貫ニシテ木醋液採集ノ爲メ炭質ニ影響ヲ及ボスコトナキモ土管ノ口徑小サキモノヲ使用スレハ炭化時間稍長キヲ要スルモノ、如シ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

木炭二十五貫目ヲ製出スル竈ヨリ採集スル液ハ三斗三升位ナリ

一 木醋液ヨリ醋酸石灰、醋酸鐵、醋酸曹達等ノ製法

醋酸石灰ノ製法 木醋液一石ニ付石灰五升ヲ混淆シ釜ニテ煮キ乾燥ス此石灰ノ收量三十磅乃至四十磅ナリ

醋酸鐵ノ製法 液一石ニ對シ古鐵凡ソ四十貫目ヲ混入シ六七十日間其儘ニ据置キタル後凡ソ一晝夜煮沸ス此收

量ハ凡百四十磅ナリ

一 製品荷造法

醋酸石灰ハ百磅ヲ以一個ニ容レ醋酸鐵ハ四斗樽ニ容レ運搬ス

一 製品ノ販路及價格

醋酸鐵ハ四斗樽一個ニ付金三圓ニシテ京都市へ販賣ス又醋酸石灰ハ目下島田醋酸製造所へ交渉中ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

木醋採集ハ廢物利用トシテ最モ利益アルモ地方ニ購買者ナク然ルニ取引遠路ナルトキハ多額ノ運送費ヲ要シ收支償ハサル狀況ナレハ未タ獎勵スルニ至ラサルナリ

新潟縣

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

明治三十四年以來管内數ヶ所ニ於テ小規模ノ企業ヲナシ醋酸石灰ヲ製シ販賣セシモノアリ或ハ東京市内日本醋



醃製造株式會社ニ醋酸石灰ノ出荷ヲ試ミシモノアリシモ創業ノ初期ニ於テ製造法ノ技術上ニ完全ナラサル点アリ又漸ク精良品ヲ製造シ得ルニ至リテハ醋酸石灰商況ノ不振ヲ來タシ爲ニ製品ノ販路ニ窮スルニ至リ遂ニ遺憾ナカラ企業者ハ全ク失敗ニ終リ現在就業シ居ルモノヲ見ス然レトモ日本醋酸製造會社ハ今回増資ノ結果將來多量ノ醋酸石灰ヲ要スヘキニヨリ遠カラス地方製造者ニ向テ出荷ヲ促スニ至ルヘシト又其他ノ販路ニ付テハ其筋ヨリ目下諸外國へ照會中ナリト聞ク若シ幸ヒニシテ現時ノ不景氣ヲ挽回スルニ至リ醋酸石灰一貫目(六十%)ノモノ(東京ニテ卅錢位)ノ相場ヲ維持セシムルヲ得ハ本縣ヨリ輸出者并ニ製炭家トモ尙相當ノ收益ヲ見ルヲ得ヘキヲ以テ今後夫々獎勵ノ方針ヲ執ルヘキ見込ナリ若一貫目三十錢以上ノ價格ヲ永續シ得ルトセハ蓋シ本縣下ヨリ年額凡二三十万貫ノ醋酸石灰ヲ製産セシムル決シテ難キニアラサルヘシト信ス

埼玉縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

土管ハ口徑五寸長二尺ノモノヲ二十本ヲ平ニ裝置シテ桶ニ通ス而シテ木醋採集ノ爲メ木炭ニ何等影響ナシ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

木炭百五十貫目出ノ竈一個ニ對スル木醋液ノ採收量二石ニシテ時季ニ依リ異同ナシ

一 木醋液醋酸石灰ノ製法

木醋液ヲ釜ニテ煮詰メ濃液トナリタルモノヲ平釜ニ移シ元々醋液一石ニ對シ石灰一貫六百目ヲ投入シ攪拌シナカラ煮詰メ乾燥後俵ニ入レテ貯藏ス

一 製品ノ荷造法

俵又ハ叭ニ入レテ出荷ス

一 製品ノ販路及價格

日本醋酸製造株式會社ニ販賣ス其價格一貫目ニ付金三拾五錢

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

主産地秩父郡ニアリテハ山林ニ關スル學士又經驗家ノ講話會ヲ開キ木炭製造業ヲ獎勵シ又同郡農會發刊ノ農事通信ヲ配布シ又諭達ヲ發シテ共ニ町村各區ニ之ヲ類チ又實地事業ヲ目撃セシムル等勸奨ヲ爲セリ

栃木縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置、冷却法ナリ

一 木醋採集ノ炭額、炭質、炭化時間ニ及ボス影響

炭額、炭質ニハ影響ナキモ單ニ炭ヲ燒ク時間ヨリ約二十四時間ノ長時間ヲ要ス

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

製炭百貫目ニ對シ木醋液二石ヲ得(季節ニヨリ差異アリ)

一 木醋液ヨリ醋酸石灰、醋酸鐵、醋酸曹達等ノ製法

木醋液一石ニ對シ石灰壹貫目程加入シ之ヲ大釜ニ投シ凡十時間程沸煮シテ醋酸石灰凡三貫目ヲ得而シテ之等ハ貯蓄セヌシテ直ニ搬出ス

一 製品ノ荷造法

麻袋凡ソ八九貫目入レノモノニ包裝ス

一 製品ノ販路及價格

價格ハ醋酸石灰壹貫目東京渡廿五錢位賣先ハ主トシテ東京市日本醋酸製造株式會社ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設



木醋採集事業ニ對シテハ獎勵ノ方針未ダ定マラス  
參考マテニ營業者ノ所説ヲ左ニ述ヘン

木醋ノ採集ヲ一時多量ニナストキハ買手ハ採集者ノ利害ヲ顧ミスシテ直チニ價格ヲ低落シテ採集者ニ甚シキ  
損失ヲ招カシムルコトアリ是レ營業者ノ安ンシテ採集ニ從事スルコト能ハサル所ナリト  
若シ斯ノ如キ虞ナクシテ營業者其ノ塔ニ安ンシテ採集スルコトヲ得ハ一般製炭業者ニモ斯ノ如キ有利ナル事業  
ノ普及ヲ十分ニ勸ムルコトヲ得ヘキナリ

三重縣

一 木醋採集ノ炭類炭化時間ニ及ボス影響  
炭質ハ普通ノモノト異ナル点ナシ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

木炭十貫目ニ對シ木醋液採集量八坪九合

一 木醋液ヨリ醋酸石灰ノ製法

木醋液壹貫目ニ對シ石灰四百目ヲ混和シ鍋ニ入レ能ク煮詰メタルモノヲ平鍋ニ移シ炒詰メ以テ醋酸石灰トス

一 製品ノ荷造法

製品ノ荷造法ハ「アンベラ」又ハ「帯」ニ入レ其上ヲ稍上等ノ漚巻トシ一個拾七八貫目トス但シ吹包トナスモノモアリ

一 製品ノ販路及價格

販路ハ静岡縣島田町北河製品所へ價格ハ壹貫目ニ付金貳拾錢内外ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

醋酸製造ノ如キハ廢物利用且ツ有益ノ事業ナルヲ以テ各郡ニ向テ相當ノ獎勵ヲ加ヘタルモ獨リ前陳ノ如キ北牟  
婁郡ニ行ハレタルノミニシテコノ他ニ於テモ目下獎勵シツ、アルモ未ダ見ルヘキモノナシ

北牟婁郡ニ於テハ去ル三十七年ヨリ獎勵ノ結果營業者瀧ヲ製造シ或ル商家ハ賣却シタルニ買受商人ヨリハ其代  
金送附セズ數十回ノ照會ヲ重ネタルモ一回ノ回答ナキヨリ本郡内長嶋町ノ商人ハ能ク送附先商家へ出頭掛合タ  
ルニ買入品夥多ノタメ荷着順序ニヨリ代金送附スヘシ依テ順番迄猶豫方談示アリタル趣爲ニ目下殆ント製造ス  
ルモノナク是レカ復舊考案中ニシテ營業者亦確實ナル販路アルニ於テハ直ニ着手ノ見込ナリト云フ因ニ本郡ハ  
販路不明ノ爲メ獎勵上困難ノ有様ナリ

愛知縣

一 木醋採集ノ炭類炭質炭化時間ニ及ボス影響

木醋採集土炭類炭質炭化時間ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

一 竈ヨリ木醋採集額左ノ如シ但時季ニヨリ量ノ多少ナク單ニ濃薄アルノミ

イ 溜竈 (三日間ヲ要シ炭十俵ヲ製出ノモノ) 六斗

ロ 日竈 (毎日炭六俵ヲ製出ノモノ) 二斗

一 木醋液ヨリ醋酸石灰等ノ製法

木醋液壹斗ニ石灰七合七勺ヲ混和シ釜ニテ能ク攪拌シツ、水分ヲ蒸發セシメ後日光ニテ乾燥シ吹入ニテ貯藏  
ス

一 製品ノ荷造法



現今製造品ハ悉皆吸入(約三斗入)

一製品ノ販路及價格

製造後未タ販賣セシコトナシ

静岡縣

一炭焼ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

使用器具 土管

冷却裝置ノ延長 直徑五寸長二尺土管ニシテ五拾貫目出竈ニ貳拾五本ヲ要ス百貫目出竈ニハ五拾本ヲ要シ二本

並ベニナシ

冷却方法 空氣冷却 導水冷却ノ二法アレトモ主トシテ空氣冷却ヲ採ル

受器ノ位置 冷却裝置ノ低所ニ位セシム即チ受器ノ方向ニ傾降スルモノトス

受器ノ裝置 受器ハ二個使用ト一個使用トアリ

一木醋採集ノ炭類炭質炭化時間ニ及キス影響

炭質 技能熟達スレハ其炭質反ツテ良好ナリ

炭化時間 關係セシ

一木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

木炭百貫ニ對シ木醋液貳石五斗乃至參石、空氣冷却ハ時季ニヨリ採集量ニ差異ヲ生ヌ即冬季夜間最多ニシテ同

晝間ハ夏季夜間採集量ニ均シ一般夏季ハ冬期採集量ノ過半ニ過キス

一木醋液ヨリ醋酸石灰ノ製法

受器ニ溜リシ木醋液ヲ大桶(貳石入)ニ八分目程移シ一晝夜安置シ木醋液ノ濃淡ヲ檢シ其度ニ應シ石灰ノ量ヲ加

減ス通常スコップ(普通土上)ニ使用スル)ニ半分位ヲ液中ニ濕シ能ク攪拌シ溶クルヲ俟テ更ニ混ス其量約一貫五  
百目混シ終ラハ赤色試験紙ヲ以テ檢ス更ニ拾貳時間安置シタル後煮ツメ鍋ニ入レ煮ツム其時間約六時間然ルト  
キハ褐色ヲ呈スル圓形物ヲ得更ニ仕上鍋ニ入レ約三時間後ニ於テ搬出シ得ル灰白色ノ醋酸石灰ヲ得而シテ此搬  
出醋酸石灰中純粹ノ醋酸石灰含有量ハ七〇乃至八〇パーセントナリ但シ木燐見ハ製造中常ニ除去ス

一製品ノ荷造法

南京袋ニ入レ搬出ス

一製品ノ販路及價格

管内ニテ製造セシモノ全部島田町北川製品所ニ送致ス

百磅ニ付三圓四十錢乃至四圓

一木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

製炭獎勵ト同時ニ木醋採集事業モ相俟テ獎勵スル方針ナリ

參 考

北川製品所調査ニヨレハ

炭材ノ收容量(二個ニ付)

百二十貫乃至百八十貫

炭材樹種 堅木

炭質 木醋採集ヲ目的トス故ニ炭質劣等

炭價 壹圓ニ付貳拾貳貫

採集量 原料ノ二十二%



木醋液 原料百貫ニ對シ平均一石一斗

平均一日同所ノ採集量 拾四石(八個ニ付テ)

一年間採集量 五千石

炭化時間 拾時間

製品種別 木精 醋酸石灰 同曹達

同 鐵

地方ヨリ買收セシ醋酸石灰量

百十萬磅 百磅ニ付三圓八十錢買

製品販路及數量

アセトン 火藥製造原料ノ爲メ某所へ五萬キログラム

醋 酸 全 國 不明

同 鐵 同 不明

滋賀縣

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

木醋採集事業ハ製炭業ノ副業トシテ大ニ利益アルモノタルハ論ヲ俟タス故ニ先年一二郡ニ於テ試驗的ニ之カ採集ヲ爲シタルニ比較的良好ノ成績ヲ見タリシト雖如何セシ近邊ノ地ニ精製場又ハ製品販賣機關ナキヲ以テ運賃其ノ他ノ關係上ヨリ未タ斯業獎勵ノ運ニ至リ難キハ遺憾トスルトコロナリ

岐阜縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

炭竈ノ後方ヨリ直徑四寸乃至五寸長三尺ノ土管ヲ繼續シテ更ニ後方五間ノ處第一貯留桶ニ至ル迄適當ノ勾配ニ低ク誘烟シ其桶ヲ通シテ更ニ後方同形ノ土管凡ソ拾間ノ處ニ至ル同勾配ニ高ク導キ其最端ハ勾配自由ノ仕掛ヲ以テ誘烟ヲ調節ス即チ烟管ハ倒マノ「へ」字形ニ裝置シ其底部ニ凡ニ二斗入位ノ桶ヲ第一貯溜所トシ更ニ他ニ四斗桶ヲ據付タ竹管ヲ通シ木醋液ヲ受ク土管ハ常ニ冷却ヲ旨トスルヲ以テ畢竟水力裝置ヲ爲スノ必要アルモ未タ着手セズ

一 木醋採集ノ炭額炭質炭化時間ニ及ボス影響

木醋ノ採集ハ産炭額并ニ炭質炭化時間等ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ

一 木醋液ヨリ醋酸石灰ノ製法

上等木醋液或石壹斗ニ石灰四貫目ヲ混入シ之ヲ大ナル平釜ニテ煮詰メ得タル醋酸石灰ハ平均十貫目内外ナリ但シ現今平均七個ヲ據付ク晝夜煮沸ニ從事セリ

製成ノ醋酸石灰ハ日光又ハ乾燥室ニ適度ノ温度ヲ與ヘテ乾燥シ直ニ荷造搬出ス

一 製品ノ荷造法

荷造ハ南京米袋ニ入レ更ニ莖ヲ以テ包裝ス

一 製品ノ販路及價格

製品ハ東京市本所區日本醋酸製造株式會社へ販賣ス價格ハ六十匁含有ノ醋酸石灰拾貫目ニ付現今貳圓五拾錢ナリ本年一月製造開始以來一日ノ平均産額醋酸石灰六拾貫目ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

別ニ施設ナシ但縣模範林經營事業ノ付屬トシテ木醋製造ノ模範ヲ示ス等ナルモ目下準備中ニ屬シ未タ實行ニ着手セズ



- 一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル装置
  - 空氣冷却装置ニシテ使用器具ハ直徑五寸土管十五本乃至二十本使用ノ場合ニ於テハ不動口ノ上部ヨリ最終ノ土管低クナリ烟ノ通過困難ナルニ依リ其場合ニハ約拾五本ノ所ニ木醋液採集ノ桶一個ヲ置キ更ニ其桶ノ上部ニ曲土管ヲ挿入シ其レヨリ普通土管ヲ連續シ最終ノ土管ニハ尙一個ノ採集桶ヲ置ク
  - 冷却装置ノ位置ハ山ノ傾斜ノ模様ニ依リ一定セズ然トモ竈甲ヲ通過セサル限ハ何レニ延長セシムルモ差支ナシ土管ノ傾斜ハ木醋液ノ流下スルヲ適度トシ後方即受器ノ所ハ不動口ノ所ヨリ低キヲ常トス
- 一 木醋採集ノ炭類炭質炭化時間ニ及ボス影響
  - 炭類ニ影響ナシ炭質一定スルカ如シ(不動口ニ冷却装置ヲナスニヨリ竈口ヨリ入ル風ノ量カ一定スル故ナラン)炭化時間ニ影響ナシ(何トナレハ烟突ノ増減ニ依リテ時間ヲ伸縮スルコトヲ得レハナリ)
- 一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量
  - 本縣ニテハ空氣冷却装置ナルニ依リ冬季ハ採集量多シ木炭百貫目ニ對シ壹石八斗乃至貳石ナリ夏季ハ冬季ニ比シ一割五分乃至二割ヲ減ス
- 一 木醋液ヨリ醋酸石灰等ノ製法
  - 木釜見ヲ除去シタル後水化石灰若シクハ生石灰ヲ加入ス木醋液ト石灰トノ中和迄ヲ見ルハ「りごます」試驗紙ニヨル
  - 中和液ハ直火ニテ水分ヲ蒸發セシメ濃度ニナリシトキ取上ケ更ニ仕上鍋ニテ乾燥セシム貯蓄法困難ナルニ依リ直ニ荷造ヲナス
- 一 製品ノ荷造法

厚キ吹ニ入レ荷造ヲナス

一 製品ノ販路及價格

販路ハ重ニ東京ナリ(日本醋酸製造株式會社ナリ)

價格現今ハ八〇物ノモノ十貫目參圓

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針

獎勵ノ方針トシテハ舊炭ノ製法ヲ改革スルト共ニ一面炭燒副産物ノ獎勵ニ勉メ今後倍々期業ノ發達ヲ期セントス然レトモ目下施設トシテ見ルヘキモノナシ

青森縣

本縣ニ於テハ未タ木醋ノ採集及其製造ニ從事スル者ナク從テ記載スヘキ材料ナシ由來斯業ニ對シ獎勵ヲ爲サザルニテラサルモ未タ曾テ具体的ニ獎勵シタルコトナシ今暫ク機運ノ到來ヲ俟タントス若シ夫レ近キ將來ニ於テ實行ノ時期ヲ得ハ其方針并ニ施設ニ關スル考按次ノ如シ

- 一 縣下適當ノヶ所ニ固定傳習所ヲ設置シ相當技術者ヲ置クコト
- 一 傳習所ニ希望者ヲ募集シ傳習ヲ行ヒ且技術者ヲ巡回指導セシムルコト
- 一 木醋液ノ採集者ニハ金三圓醋酸石灰其他製造所ニハ金拾圓兩者兼行者ニハ金拾貳圓以下補助若クハ五ヶ年間貸與スルコト
- 一 製造品ハ一時村役場ニ集中シ代價ノ約八割ヲ直ニ製造者ニ内渡スルコト
- 一 各村役場ハ精製所ト特約シ輸送スル事

以上各項ヲ實行スルニ非ラサレハ斯業ノ勃興容易ニ得テ望ムヘカラス

石川縣



本縣ニテハ特ニ記スヘキ事項ナシ只縣模範林業場ニ於テ實驗ノ爲メ簡易ノ方法ニ據リ採取シ醋酸石灰同曹達醋  
酸ヲ製造スルノミ

富山縣

木醋製造ニ就キ當業者個々ノ販賣ニ放擲スルトキハ到底有望ノ域ニ達シ難キヤ明ナルヲ以テ木炭獎勵ノ如ク共  
同販賣ノ途ヲ開キタル上ニ發展セシメントスル見込ナルモ現下ニ於テハ二三ノ當業者カ試驗的製造ヲ行フニ過  
キサルヲ以テ未タ報告スヘキ事項ナシ

山口縣

一炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル装置  
装置ニ付テハ普通用キラル、者ト大差ナキヲ以テ一々之ヲ記述スルノ煩ヲ避ケントス唯是ニ注意スヘキハ炭燒  
竈ノ兩側及後方ニ三ツノ煙筒ヲ設ケ之ニ土管ヲ裝置シテ三條ノ導管ヲ第一受器ニ導キ之ヨリ第二受器迄二條ノ  
導管ヲ導キ受液器ニ裝置セル煙突ハ二條トス  
竈一個ニ要スヘキ土管ハ直徑六寸長三尺ノ者普通四十本及曲土管八本トス土管ノ接續箇所ハ「ター」ト粘土ヲ  
混シテ塗布ス冷却裝置ハ冷水冷却裝置ナリ

一木醋採集ノ炭額炭質炭化時間ニ及ホス影響  
生木千五百貫ヨリ普通二百五十貫ノ木炭ヲ得ルト雖モ木醋ヲ採集スルトキハ三十貫計リ減少スルヲ見ル而シテ  
同所ニ於テハ前述セル如ク三個ノ煙筒ヲ裝置セルハ惟フニ普通見ルカ如ク一條ノ土管ヲ裝置シ木醋液ノ採集ヲ  
爲サントセハ必スヤ幾分ノ炭化日數ヲ増スヘク特ニ斯クノ如キ大容積ノ炭燒竈ニ於テ最モ然ルヲ見ルヘシ之レ  
故ニ炭化日數ヲ減セシカ爲メ三個ノ煙筒ヲ裝置セルモノニシテ即チ普通竈ニ依レハ炭化日數七乃至九日ヲ要ス  
ルニ比シ同所ニ於ケル炭化日數ハ反テ五日乃至六日ヲ以テ足ル然レトモ之レカ爲メ木炭量ヲ減シ且ツ炭質ニ於

テモ幾分ノ粗惡ヲ免レヌ

一木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

生木千五百貫ヨリ木炭二百二十貫木醋三石四斗ヲ得但シ右木醋量ハ夏季ノ取調ニシテ冬季ニ於テハ約二倍ノ採  
集量アリト云フ

一木醋液ヨリ醋酸石灰ノ製法

阿武郡川上村字大四郎山ニ於ケル醋酸石灰製造工場ハ四組アリ同工場ハ左圖ノ如ク一組ノ西洋竈場ヲ建設シ

内「イ」「ロ」「ハ」ナル三個ハ煮竈ニシテ直徑三尺二寸深サ一尺八寸容積六斗入ナリ其他「ニ」「ホ」ノ  
二個ハ平鍋ニシテ直徑三尺二寸深サ二寸ナリ

木醋液一石ニ付石灰一貫二百匁ノ割合ニ混シ其中和セル液ヲ初メ「イ」「ロ」「ハ」三ツノ煮竈ニ汲ミ移シ(但シ下  
底ニ沈澱セル不純物ハ之ヲ除去ス)然後ニ竈ニ火ヲ加フルトキハ漸次水分ヲ蒸發シテ濃厚ナル液ヲ得ヘシ此  
ノ際ニ於テモ「ター」ヲ浮出シタル者ハ之ヲ除去シ常ニ匙ヲ以テ間斷ナク攪拌スルヲ要シ殊ニ火力ニ注意ス然ラ  
サレハ醋酸石灰ハ忽チ分解シ始メアセトシテ蒸散シ炭酸石灰ニ變スト云フ

斯クシテ「イ」「ロ」「ハ」各竈ノ溶液ハ濃厚トナシ若クハ其量ヲ減スルニ至レハ適宜ニ「ロ」「ハ」「ニ」「イ」「ハ」「ロ」ニ  
又「イ」竈ニハ新ニ溶液ヲ汲ミ移ス而シテ煮鍋ニ於テ漸次水分ヲ蒸發シ著シク濃厚トナルニ及シテ適宜ニ之ヲ  
「ニ」或ハ「ホ」ナル平鍋ニ移シ遂ニ良質ナル醋酸石灰ヲ得可シ而シテ溶液ヲ煮鍋ニ汲ミ移シテヨリ約十時間餘ニ  
シテ製造シ得可シ

一製品ノ荷造法

醋酸石灰ハ十二貫毎ニ袋裝トナス

一製品ノ販路并ニ價格



醋酸石灰ハ静岡縣島田町北川醋酸製造所ニ送付ス購買價ハ相場一定セサントモ上等品一俵ニ付キ四圓五拾錢乃至四圓六十錢ナリト云フ

和歌山縣

一炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル装置

西牟婁郡ニ於テハ逆流冷却装置ヲ用ユ

一木醋採集ノ炭額炭質及炭化時間ニ及ボス影響

木醋ヲ採集スルモ製炭上ニ何等異ナル處ナク却テ炭質ノ善良ナルモノアリ炭化時間又差異ナシ(日高郡)

炭質ハ木醋ヲ採集セサル木炭ト同質ニシテ少量ヲ増加ス而シテ炭化時間ハ竈ノ構造又ハ木ノ大小ニヨリ

炭化時間ニ相違アルモ一竈(一俵三、五百目)平均ニ晝夜ニシテ炭化ス木醋ヲ廢物利用ニ採收スルヲ以テ木醋ヲ

採集セサル炭化時間トモ變化するナシ(西牟婁郡)

一木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

第二項ニ記セル土管ノ長短及竈ノ構造ノ工合ニヨリ多少ノ差異アルカ如キモ大抵木炭百貫目製出ニ對シ約五斗

乃至六斗ヲ得(日高郡)

炭竈一竈ニ約四百貫ノ生木ヲ入レ之ニ對スル木醋液二斗ヲ採集ス木ノ大小ニヨリ液ノ増減アリ時期ニヨル差異

ハ三月ヨリ十月ニ至ル間ノ採取樹木ニ水分ヲ含ムヲ以テ多量ニ木醋液ヲ採集シ得ルモ品質惡シク十一月ヨリ翌

年二月ニ至ル間ハ前記間ニ採集ノ液ヨリ減收スルモ品質良好ナリ(西牟婁郡)

一木醋液ヨリ醋酸石灰等ノ製法

醋酸石灰ノ製造法ハ木醋ヲ釜ニ入レ能ク沸騰スルヲ待テ木醋一石ニ對シ石灰一斗ノ割合ヲ以テ投シ能ク攪拌シ

煮詰メタルヲ見テ深ヘ揚ケ日光又ハ爐火ニ乾燥ス醋酸鐵液ハ鐵鍋又ハ俗ニ五右衛門ト稱スル風呂釜ノモノニ

凡ソ八分目許鐵屑ヲ容レ後木醋ヲ其中ニ投下シ攝氏約六十度位迄之ヲ温メタルトキハ醋酸、鐵屑一種ノ化合作  
用ヲ起シ(タール)浮上ルヲ以テ之ヲ再三掬ヒ去リ後四五日ヲ經テ中和スルナリ是レ所謂醋酸鐵液ナリ貯藏法ハ  
大桶或ハ四斗樽様ノモノニ容レ密封シ置ク(日高郡)

醋酸石灰製法及石灰加入法加入量木炭竈ヨリ採集セシ液ハ大樽ニ入レ石灰ヲ加入スルモノニシテ石灰ノ量ハ木  
醋液ノ良否ニヨリ一定セス適宜ニ石灰ヲ加入スレモ要スルニ良液ハ多量ニ然ラサルモノハ少量ニ加入ス石灰加  
入數量ハ當業者日尙ホ淺ク目下試驗中ニ屬スルヲ以テ精密ニ調査スル能ハス

乾燥法 乾燥ニ際シテハ豫メ甲乙丙三個ノ釜(何レモ水)ヲ据付ケ前記石灰ノ加入セル木醋液ヲ一晝夜間放置シ  
甲ノ釜(約五斗)ニ入レ煮詰ムル事凡十時間ニシテ水氣ヲ蒸發セシメ粘氣ヲ生スルニ至リテ乙ノ釜ニ入レ凡六時  
間煮詰メ充分乾燥セシメ且日光ニテ一日間乾燥ス(西牟婁郡)

一製品ノ荷造法、醋酸石灰ハ麻苧製袋ニ入レ十二貫目ヲ通例トシ(西牟婁郡)縦一條横二條ニ壓シ最モ堅固ニ荷  
捌ス鐵液ハ四斗樽武力鐵ニ入レ太繩ヲ以テ荷造ス量目四斗樽入百六十ポンド武力鐵入五十ポンド(日高郡)

一製品ノ販路及價格  
目下販路ノ宜シキヲ得サル爲メ價格モ又宜シカラス大抵醋酸石灰賣價目二十四錢乃至二十六錢同鐵液ハ二十錢  
位ニシテ一時中止ノ姿ナリ(日高郡)

西牟婁郡ニ於テハ製品ハ日本醋酸製造株式會社及静岡地方へ販賣ス目下製品ノ價格低廉ナルニヨリ賣行惡シク  
從テ製造額僅少ナリ價格ハ醋酸石灰百磅ニ付貳圓内外ナリ

一木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設  
日高郡ニ於テハ從來木炭ノ製造ニ乏シカラスト雖モ木醋製造スルモノハ僅ニ清川高城ノ二ヶ村アルノミニシテ  
之レ逆直接需用先ニ輸送スルニアラス南部町ニ於ケル仲買人ニ賣渡スヲ以テ常トシ爲ニ常ニ利益ハ仲買人ノ體



斷スルトコロトナリ廢物利用ノ好事タル該事業モ遂ニ中止セサルヲ得サルノ運ニ至レリ故ニ將來之レカ獎勵ヲ期セシニハ倉皇販路ノ擴張ヲ需ムルヲ以テ最モ急務トス

愛媛縣

從來木醋ノ製造ニ從事スル者數ヶ所ニアリタルモ製品ノ販路ニ乏シク又收支相償ハサルヲ以テ悉ク廢業シ目下從業スルモノナシ

高知縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

木醋ノ製造ニ就テハ安藝郡井ノ口村仙頭完ナル者多年研究ノ結果案出セルモノナリト稱シ其方法ハ一時當業者間ニテ旺ニ採用セラレントスル狀况ナリシモ目下孰モ休業中ニシテ其ノ裝置ノ大要ヲ記載スレハ左ノ如シ  
炭竈ノ後方ニ在ル大師穴ノ上部普通升ト稱スル所ニ素燒ノ兩導土管<sup>甲</sup>乙<sup>乙</sup>圖ノ如キモノヲ据附ケ其乙ノ先端ニ更ニ素燒ノ土管一本ヲ接續シテ其端ヲ深貳尺長一丈位ノ聯通竈ノ如キ竈内ニ導クモノトス而シテ其竈ハ中程ヨリ折リテ二重トセハ塲所ヲ節減シ得ヘク其竈ノ端ニハ又素燒ノ土管若クハ粘土ヲ以テ煙道ヲ造リ炭竈ノ頂點ニ達セシメ其ヨリ上方ニ向ケ土管ヲ直立シテ煙突ノ如ク煙ヲ飛散セシムヘン斯ノ如ク回振シテ炭竈上ニ導キタル理由ハ竈ノ熱ニ依リ煙道ヲ熱シテ煙道内ノ空氣ヲ稀薄ナラシメ上昇力ヲ増進セシメ大師穴ニ於ケル煙ノ吸引カヲ旺盛ナラシメンカ爲ニシテ採收器具ハ稍耐熱性ノ土管ノ一端ニハ底アリ一端ハ開キタル<sup>〇</sup>長一尺八九寸徑五六寸以上ノ恰モ大形ノ試驗管ノ如キモノヲ其竈ノ上面ヲ竈ノ如クナシタル上ニ挿入シテ其管縁ヲ掛ケテ併列セシメ水平ヲ均シク保タシメ各管ノ間ニハU字形曲管ヲ以テ連續セシム而シテ一方ノ管ニ水ヲ注入スルトキハ各管水ノ平準ヲ得ンカ爲ニ曲管ヲ介シテ互ニ推移シ最後ノ曲管ヨリ水ハ流出シ各管ハ冷却セラレテ其挿入面ノ外部ニ觸ル、煙ハ液即チ木醋水滴トナリテ底央ヨリ滴下スヘシ此水滴ハ種モ受ケラレテ流出シ木樽(四斗樽)ニ

入ル而シテ最初ノ水蒸氣又ハ最後ノ不用煙ハ甲部ノ蓋ヲ除キ煙突上ヲ蓋フテ直ニ飛散セシムヘシ是レ不用無益ノ液ヲ防キテ採收器具ノ破損ヲ防クカ爲ニシテ此裝置ニ據ルトキハ土管十本其他粘土土砂ヲ必要トスルノミナルヲ以テ其設備極メテ輕便ナリ

一 木醋採集ノ炭額、炭質、炭化時間ニ及ボス影響  
炭額炭質ニ及ス影響ニ就テハ別ニ差異ナク寧良好増額ノ傾向アルモノト見テ可ナリ炭化時間ハ何等影響ナク長短隨意ニ加減スルコトヲ得ヘシ

佐賀縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

冷却セシムルノ器具ハ土管及竹ヲ以テシ冷却器裝置ノ延長ハ一定シ難キモ生木五千斤入竈ニテ徑四寸延長八間許トシ後方ノ高低モ地形ニヨリ一定シ難キモ概テ低ク裝置セリ受器四斗樽ハ後方ニ据付ケ居ケリ

一 木醋採收ノ炭額炭質炭化時間ニ及ボス影響、別ニ影響ナシ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

一 木醋液ヨリ醋酸石灰等ノ製法

醋酸石灰ノ製法ハ木醋液ノ良否ニヨルモ普通木醋一石ニ付石灰一斗二升ヲ加入シ試驗紙ニ依リ中和後一時間沈澱セシメ釜ニテ煮詰メ結晶セシム

醋酸鐵製造ハ木醋ニ鐵ヲ入レ一定ノ度合迄焚キ詰ム貯藏ハ空氣ノ透入ヲ絶テテ貯藏ス

一 製品ノ荷造法

醋酸石灰ハ以ニ入レ水分ノ豫防ヲナシ醋酸鐵ハ瓶詰ニシテ箱ニ貯藏ス



一 製品ノ販路及價格

販路ハ醋酸石灰ハ大坂、静岡、東京、醋酸鐵ハ久留米博多ナリ

價格ハ醋酸石灰百磅入金二圓五拾錢以上五圓迄、醋酸鐵ハ(二合入)金五錢以上七錢迄ナリ

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針并ニ施設

右ハ獎勵中ナルモ教師ヲ雇入レ又ハ採集場等ヲ設ケ實地ニ於テ之ヲ獎勵并ニ施設セルモノナシ

熊本縣

一 炭竈ノ烟ヲ冷却採集スル裝置

裝置方法ハ竈ノ後方二個ノ噴烟口ヨリ各口ニ長一尺五寸直徑五寸ノ土管二本ヲ接續直立セシメ是ヨリ徑五寸長壹丈三尺ノ竹筒ヲ下方ニ傾斜セシメ水槽ヲ貫キテ貯液箱ニ接續セシメ又貯液箱ヨリ前管ト平行ニ上方ニ傾斜シ水槽ヲ貫キテ水槽ノ他端ニ開放セル徑五寸長一丈三尺ノ竹筒ヲ備ヘ然シテ水槽ハ長九尺巾一尺五寸深サ二尺ノ木製箱ニシテ箱内ニハ不斷水管ヨリ冷水ヲ導キ槽水ニ充蓄ス

貯液箱ハ長巾深トモ一尺四方閉塞セル小箱ニシテ一側ハ烟管ニ接續シ他側ハ下部ニ一ノ導管ヲ備ヘ箱内ニ貯ラシタル木醋液ヲ滴下シ受器ニ送ルモノトス而シテ其受器ハ適宜ノ桶ヲ用ユ但シ採集ノ裝置ハ別紙圖面ノ通

一 木醋採集ノ炭類炭質炭化時間ニ及ボス影響

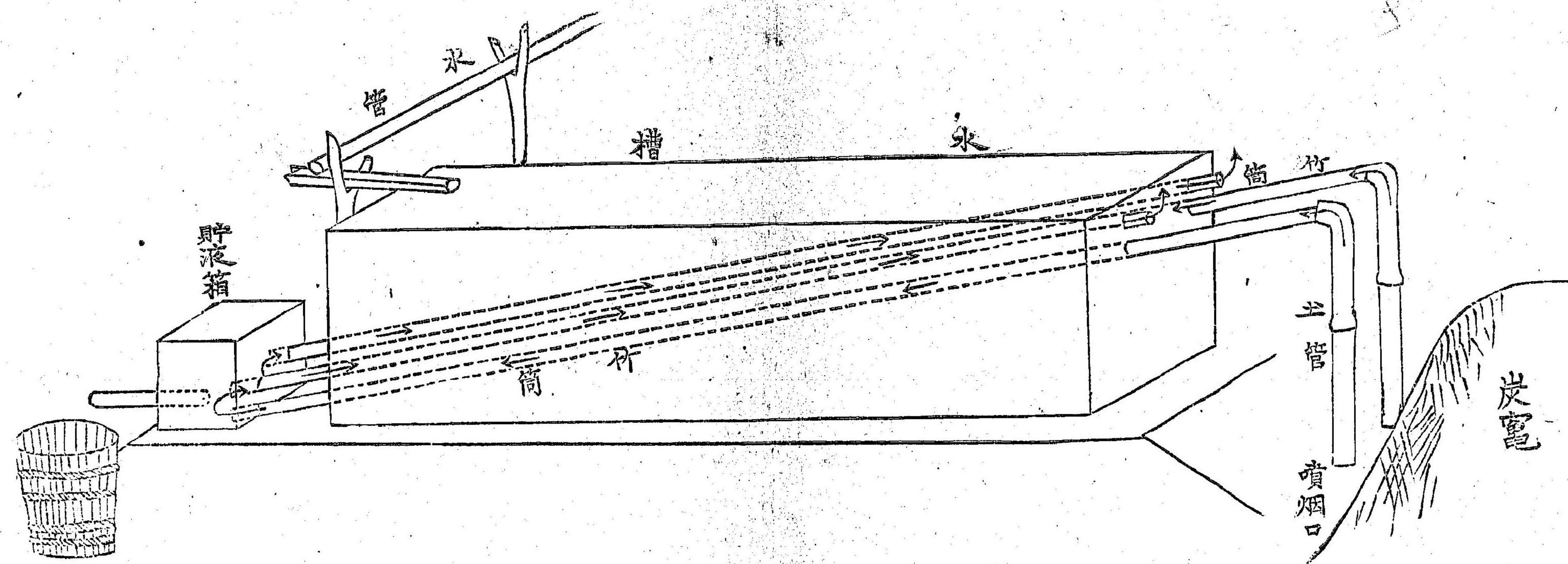
何等影響ナシ

一 木炭ノ一定量ニ對スル木醋液採集量

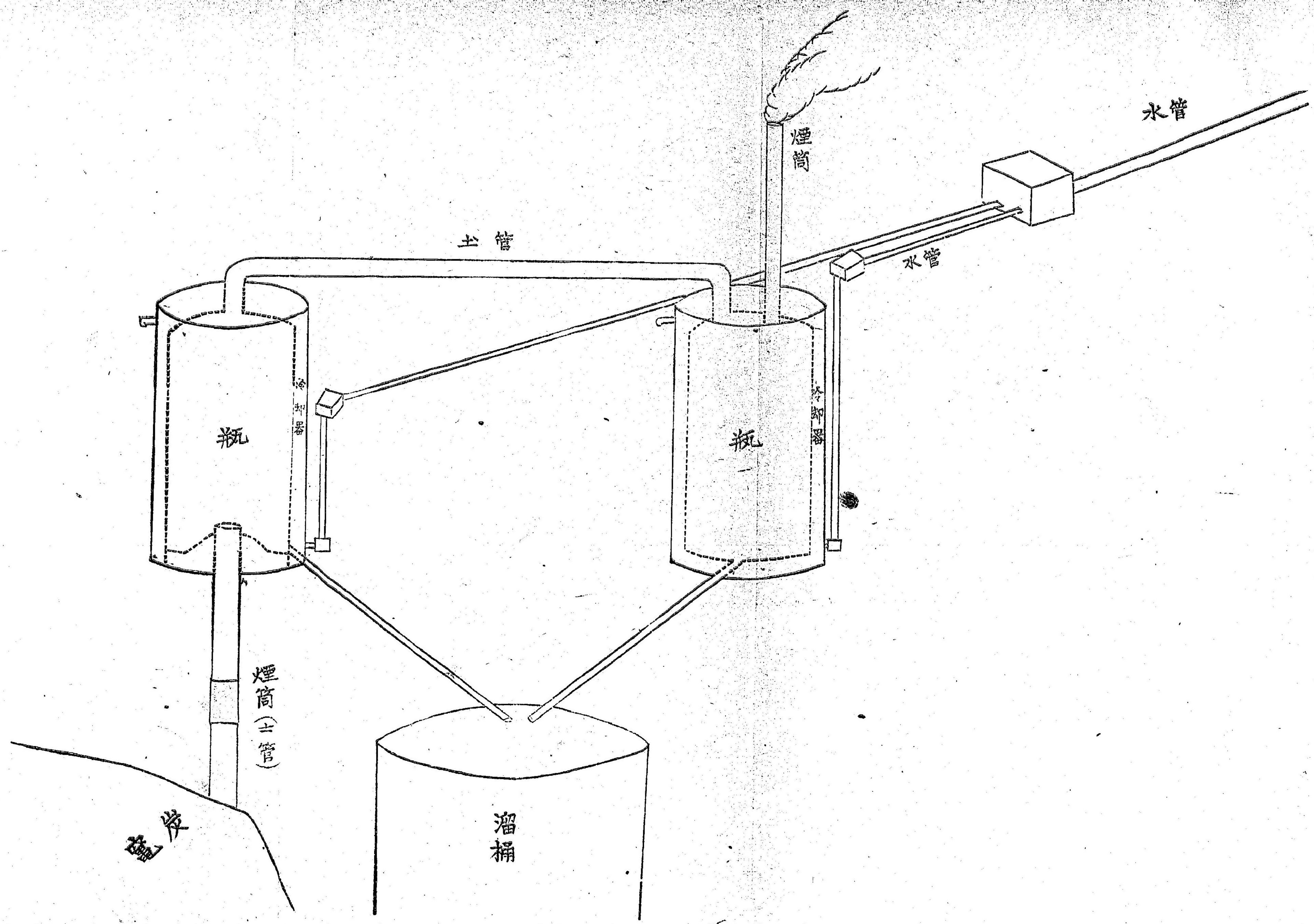
原料樹種ト伐採時季(冬季多ク夏季少シ)并ニ伐採日子ノ經過ニヨリ多少差アリト雖モ概シテ生木一千貫匁ニ付三石ヲ採取ス

一 木醋液ヨリ醋酸石灰等ノ製法











木醋液ヨリ醋酸石灰ヲ製造スルニハ木醋液ニ石灰ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ中和セシメ而シテ其石灰ノ量ハ木醋液ノ含有性分ノ多少ニ依リ大ニ異ルヲ以テ一定スヘカラス故ニ試験紙ヲ用キテ中和ノ度ヲ計レリ木醋石灰ヲ乾燥セシムルニハ初メ大釜ニ入レ火力ニ依リ水分ヲ蒸發セシメ後取出「ザル」等ニ廣ケ日乾又ハ乾室ニ入レ火力乾燥ヲナス

一 製品ノ荷造法

製品ハ以入トナス

一 製品ノ販路及價格

製品ハ東京又ハ静岡縣ノ營業者ニ販賣シ其價格十貫目ニ付參圓貳拾錢トス

一 木醋採集事業ニ對スル獎勵ノ方針及ニ施設

本事業ノ獎勵及前途施設ノ方法等ハ現今專ラ考究シツ、アリ



明治四十一年二月七日印刷  
明治四十一年二月十日發行

# 農商務省山林局

印刷人 石丸鐵三郎  
東京市芝區櫻田備前町九番地

印刷所 東亞印刷株式會社  
東京市京橋區鈴木町二番地

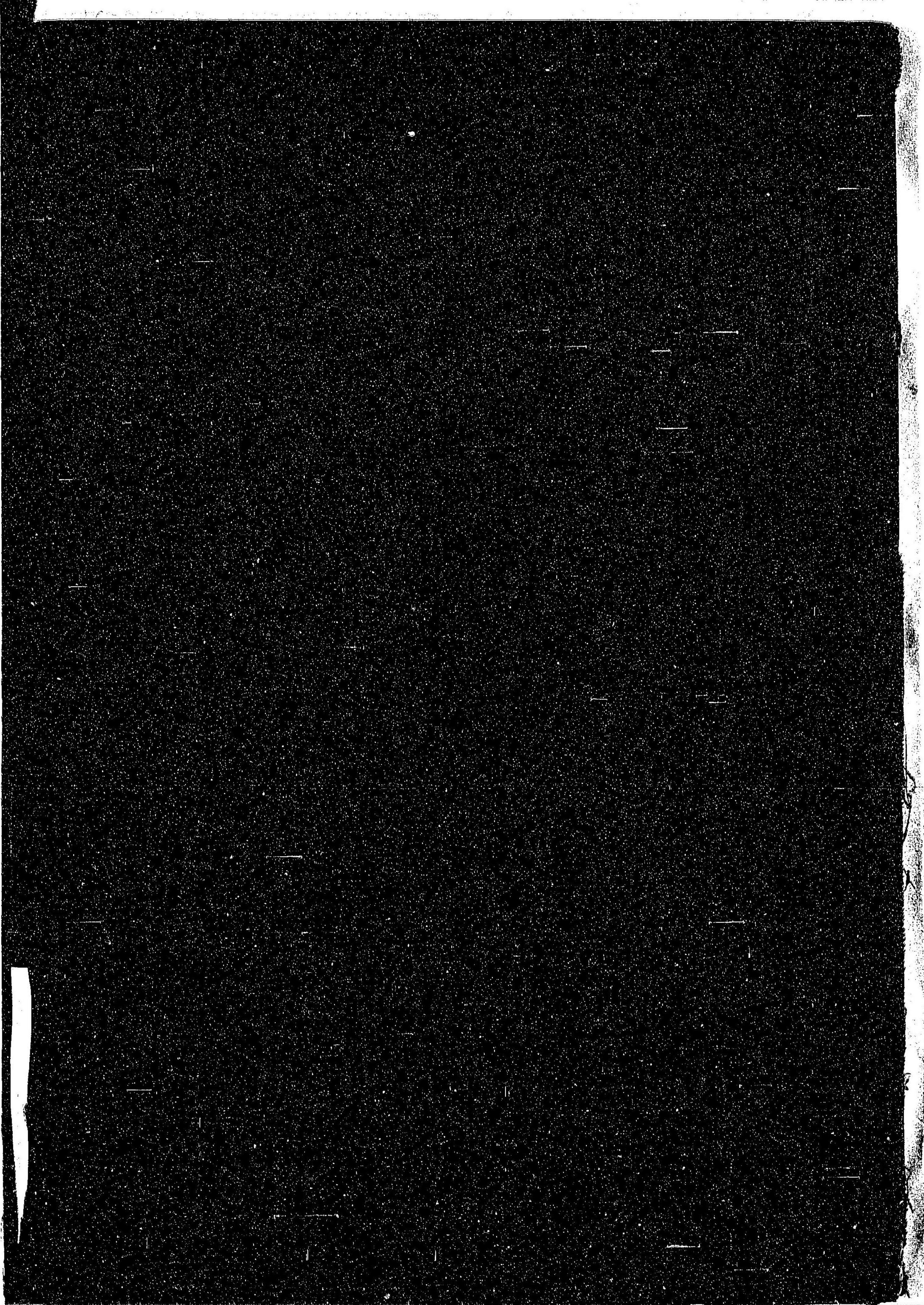


78



22  
430







22

430

065390-000-1

22-430

木炭及其副產物

農商務省山林局

M41.2

CCE-0242





